

**令和3年度大学教育再生戦略推進費
「大学の世界展開力強化事業」計画調書
～ アジア高等教育共同体(仮称)形成促進 ～**

[基本情報:タイプ]

(A①:CAプラス)

1. 大学名 <small>(〇が代表申請大学)</small>	九州大学				
2. 機関番号	<small>代表申請大学</small>	17102			
3. 主たる交流先の相手国	中華人民共和国, 大韓民国, マレーシア				
4. 事業者 <small>(大学の設置者)</small>	ふりがな いしばし たつろう (氏名) 石橋 達朗		(所属・職名) 総長		
5. 申請者 <small>(大学の学長)</small>	ふりがな いしばし たつろう (氏名) 石橋 達朗				
6. 事業責任者	ふりがな みやざき たかひこ (氏名) 宮崎 隆彦		(所属・職名) 大学院総合理工学府・教授		
7. 事業名	【和文】 エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム - プログラムのパッケージ化とASEANへの展開 -				
	【英文】 Cooperational Graduate Education Program for the Development of Global Human Resources in Energy and Environmental Science and Technology - Expansion to ASEAN -				
8. 取組学部・研究科等名 <small>(必要に応じ[]書きで課程区分を記入。複数の部局で合わせて取組を形成する場合は、全ての部局名を記入。大学全体の場合は全学と記入の上[]書きで全ての部局名を記入。)</small>	<small>学問分野</small>	<input type="radio"/> 人社系 <input checked="" type="radio"/> 理工系 <input type="radio"/> 農学系 <input type="radio"/> 医歯薬系 <input type="radio"/> 看護・医療系 <input type="radio"/> 全学 <input type="radio"/> その他			
	<small>実施対象 (学部・大学院)</small>	<input type="radio"/> 学部 <input checked="" type="radio"/> 大学院 <input type="radio"/> 学部及び大学院			
大学院総合理工学府					

9. 海外相手大学				
	国名	大学名(日本語)	大学名(英語)	部局名
1	中華人民共和国	上海交通大学	Shanghai Jiao Tong University	上海交通大学大学院
2	大韓民国	釜山国立大学	Pusan National University	工学系列
3	マレーシア	マレーシア工科大学	University Technology Malaysia	機械工学科
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

10. 連携して事業を行う機関(国内連携大学等)					
	大学等名	取組学部・研究科等名		大学等名	取組学部・研究科等名
1			4		
2			5		
3			6		

(大学名:九州大学①) (タイプ (A①:CAプラス))

11. 「学校教育法施行規則」第172条の2第1項において「公表するものとする」とされた教育研究活動等の状況について、公表しているHPのURL

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education>

12. 本事業経費 (単位: 千円) ※千円未満は切り捨て

年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計	
事業規模 (総事業費)	20,870	25,585	22,985	25,905	26,685	122,030	
内訳	補助金申請額	15,800	14,220	12,798	11,518	10,366	64,702
	大学負担額	5,070	11,365	10,187	14,387	16,319	57,328

13. 本事業事務総括者部課の連絡先

部課名			所在地		
責任者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
担当者	ふりがな (氏名)		(所属・職名)		
	電話番号		緊急連絡先		
	e-mail(主)		e-mail(副)		

(大学名:九州大学①) (タイプ (A①):CAプラス)

質の保証を伴った交流プログラムの目的と内容【1ページ以内】

① 交流プログラムの目的・概要等

【交流プログラムの目的及び概要等】

九州大学 (KU) は、韓国・釜山国立大学 (PNU) , 中国・上海交通大学 (SJTU) とのキャンパス・アジアプログラム「エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム」(以下、CAMPUS Asia EEST) を2011年に開始し、2020年度までに171名の修士ダブルディグリー (DD) 取得者を輩出した。エネルギー・環境問題に関わる科学技術分野でグローバルに活躍する高度研究者・技術者、すなわち、「エネルギー環境理工学グローバル人材」の養成を目指すこのプログラムは、世界トップレベルのグローバル教育研究拠点の形成という本学の中長期的ビジョンに沿ったものであり、本プログラムの実施主体である九州大学大学院総合理工学府の恒常的な教育プログラムの一つとして既に定着している。

本事業では、日中韓の強力な連携の元で成功を収めている本プログラムの枠組みをASEANに拡大する。アジアにおけるエネルギー・環境問題の現状を俯瞰すると、近年の高い経済成長率と共にエネルギー消費が増大し、それに起因する環境問題も深刻化しているASEAN諸国は無視できない存在である。従って、本プログラムが養成する次世代のエネルギー環境理工学グローバル人材には、日中韓からASEANへ知識ならびに交流ネットワークを拡大することが強く要請される。そこで、以下の3項目を本事業の具体的な目標とする。

1. マレーシア工科大学 (UTM) を加え、4大学によるキャンパス・アジアプラスプログラムを実施する。マレーシアは工業化に成功しASEAN諸国の中でも早くから経済成長を遂げた国である。マレーシアの工学系人材育成を支える名門大学であるUTMが本プログラムに加わることで、日中韓の学生の視野が広がるだけでなく、マレーシアの学生にとっても最先端の研究教育に触れる機会が提供される。アジアの多様性を包含した理工系高等教育の場へとCAMPUS Asia EESTを発展させて、エネルギー環境理工学グローバル人材育成の高度化を図る。
2. 博士課程学生の留学機会を拡大するために、KU-PNU間で枠組みを構築した博士DDプログラムを推進する。加えて、博士DDの前段階として実施している博士研究インターンシップ (3ヶ月～6ヶ月程度) を促進し、より多くの博士学生がCAMPUS Asia EESTを通じて国際的な経験を積むことができる環境を整える。
3. 補助期間終了後のプログラム自走化に向けて、学内の奨学金制度や外部からの支援等、プログラム運営資金を確保するための方策を検討するとともに、オンラインを効果的に活用し、教育の質の維持を前提として効率的なプログラム運営体制を構築する。

【養成する人材像】

「エネルギー環境理工学グローバル人材」に必要な資質として、以下の能力を育てる。

1. 専門分野の深い知識の修得とそれに基づく研究開発能力
2. エネルギー環境問題の現状の理解と問題解決に向けた思考力
3. グローバルに活動するために必要な英語力
4. 自国及び異国の文化・人・社会の理解と国際感覚

【本事業で計画している交流学生数】 各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位の取得の有無は問わない)

(単位: 人)

2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
50	28	85	12	63	88	65	75	77	60

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①: CAプラス)

② 事業の概念図 【1ページ以内】

九州大学 (KU) , 釜山国立大学 (PNU) , 上海交通大学 (SJTU) , マレーシア工科大学 (UTM) の4大学でコンソーシアムを組み, エネルギー・環境に関わる科学技術分野のグローバル人材の育成を目指す。キャンパスアジア第1期・第2期を通じて, 修士課程, 博士課程の双方にダブルディグリー (DD) 取得コースと, DDは取得せずに本プログラムが提供する様々な国際交流や講義に参加するコースを表1のように整備した。本事業では, これらを一つのパッケージとしてUTMに適用する。

表1 Campus Asia EESTの教育プログラムメニュー

教育プログラム			修士		博士	
			DD	非DD	DD	非DD
留学・国際交流	中長期	1セメスター留学 (4~5ヶ月)	◎	-	-	-
		研究留学 (1年)	-	-	◎	-
		研究インターンシップ (3~6ヶ月)	-	-	-	◎
	短期	サマースクール (2週間) ・集中講義, ・修士論文中間審査 (DDのみ), ・学術交流	◎	◎	○	○
		スプリングセミナー (オンライン・数日間) ・アジア文化科目, ・産学連携科目, ・文化交流	○	○	○	○
		コンソーシアム参加校が主催・共催する各種国際セミナー・シンポジウム ・CSS-EEST, ・IEICES, ・IMAT など	○	○	○	○
講義	通常コースの講義群	◎	◎	◎	◎	
	キャンパスアジア講義 ・エネルギー環境理工学分野 (サマースクールで実施) ・エネルギー, 環境に関連する専門分野 (CAプログラム選択必修)	◎	◎	-	-	
	実践英語	◎	◎	○	○	
論文審査	修士	母大学と派遣先に共通の修士論文 (英語) を提出	◎	-	-	-
		母大学だけに修士論文を提出	-	◎	-	-
	博士	母大学と派遣先のそれぞれに内容の重複しない博士論文を1編ずつ (計2編)	-	-	◎	-
		母大学だけに博士論文を提出	-	-	-	◎

◎必修, ○選択

3大学で実施した枠組みにUTMを加え, プログラム参加学生の数を増やすと同時に, より多様なバックグラウンドを持つ学生が加わることで, 学生同士の国際交流の幅を広げる。各大学が責任を持ってプログラムを運営するために, Plan, Do, Check, ActionのPDCAサイクルでプログラム運営を担当する組織としてPDCA委員会を各大学に置く。また, コンソーシアムとして必要な意思決定は4大学から委員が参画する国際PDCA委員会が行う。KU-PNU-SJTUにはこのような実施体制が既に構築されているため, 本事業ではまずUTMにPDCA委員会を設置し, 2023年度からUTMのダブルディグリー生派遣・受入開始に向けて協議と環境整備を実施する。

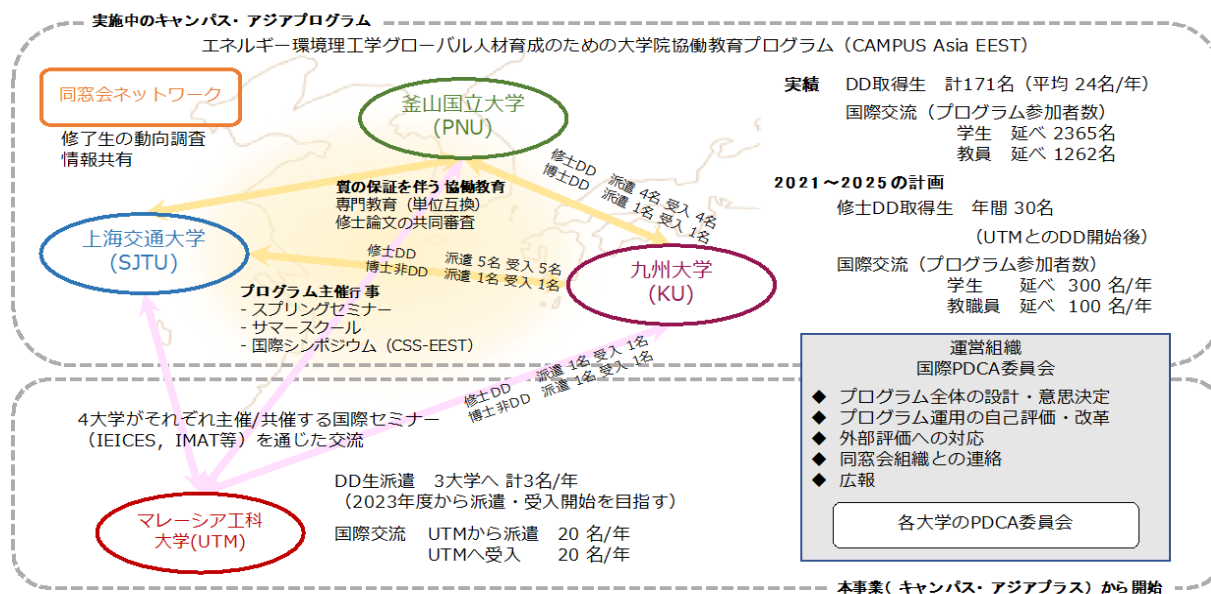


図1 4大学コンソーシアムによるキャンパス・アジアプラスの概念図

(大学名: 九州大学①) (タイプA①: CAプラス)

③ 国内大学等の連携図 【1ページ以内】

現在のところ国内大学との連携は計画していないが、サマースクールオープン化により、コンソーシアムの4大学以外の大学の修士課程学生が希望すれば、4大学の同意の下で参加を認める。もし国内の特定の大学から相当数の希望者があれば□□、将来的には連携を検討する。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①： CAプラス)

④ 交流プログラムの内容 【 ページ以内】

【実績・準備状況】

九州大学大学院総合理工学府は、大学院教育国際化の役割を積極的に担う部局の一つであり、表2に示す多彩な国際教育プログラムを実施している。それらの中でCAMPUS Asia EESTは、エネルギー・環境問題の解決に向かってグローバルに活躍する高度専門人材の輩出を目指すプログラムである。CAMPUS Asia EESTの中心である修士課程ダブルディグリー（DD）プログラムは、1セメスターの留学を必須としながらも3大学の協働による講義の実施や修士論文の共通化などの工夫によって、3大学ともに標準の修士修業年限（KUとPNUは2年、SJTUは2.5年）で学位の取得が可能であり、学生に過度な負担のかからないプログラムとなっている。表3に九州大学を母大学とするDD生の標準的な修学パターンを示す。修士1年次の9月に留学先大学に入学し、留学先大学は期間短縮による約1年半で修士課程を修了する。これにより、九州大学の学生は標準修業年限の2年で九州大学を修了すると同時に留学先大学を修了し、両大学の学位を取得できる。

修士DDプログラムは、2014年度から2020年度の7年間で171名のDD取得生を送り出し、また、2016年には優れた工学教育モデルとして日本工学教育協会から「工学教育賞（文部科学大臣賞）」を受賞した。さらに、2019年度には九州大学と釜山国立大学との間で博士課程におけるDDの枠組みに関する協定を取り交わし、より高い専門性が要求される博士課程においてもグローバルな経験を十分に積んだ人材の育成への本格的な取り組みを開始した。本事業では、以上のように、既に実績のある現在のプログラムをCAMPUS Asia EESTパッケージとしてASEANに展開する。加えて、CAMPUS Asia EESTのさらなる高度化に向けて次に挙げる課題にも取り組む。

● 博士DDおよび海外研究インターンシップの促進

KU-PNUの博士DDプログラムは2020年度に学生募集を開始し、現在2年目であるが未だ学生の応募はない。博士課程の場合には、標準的な学位取得年数と必要単位数の相違、また、論文の独自性を担保するために通常よりも多い数の学術論文が必要となり、学位論文もそれぞれ異なる内容を両大学に提出する必要があるなど、学生にとってはかなり敷居が高く、かつ、博士DDの枠組みを他大学に広げるに際しても高い障壁となっている。そこで、博士DDの枠組みによる学生派遣・受入を増やす努力は継続するが、同時に中長期留学を経験する博士課程学生を増加させるために研究インターンシップを促進するための取り組みを実施する。

● プログラムの自走化に向けた体制の構築

1セメスターの留学だけでなく、サマースクール、スプリングセミナー、国際シンポジウム等、本事業で主催する行事・講義にかかる経費の全てを大学の一部局が自己資金で賄うのは限界がある。そこで、学内の奨学金や外部からの支援などプログラム運営資金を確保するための方策を検討する。同時に、オンラインを効果的に活用し、教育の質を維持しつつプログラム運営を効率化するための取り組みを実施する。

表2 九州大学大学院総合理工学府が実施する国際化教育プログラム

	~2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
現行の国際化教育プログラム	GAプログラム* (2012-2018)		常設コース化済み									
			*博士課程教育リーディングプログラム・グリーンアジア国際戦略プログラム (修士博士一貫)									
			CAMPUS Asia (第1期: 2011-2015, 第2期: 2016-2020)		CAMPUS Asia Plus (第3期: 2021-2025)					サステナブル化		
			釜山国立大学 博士DD, 台湾科技大 修士DD									
準備中の国際化教育プログラム			博士課程国費留学生優先配置: Intellectual Exchange and Innovation (IEI) プログラム (2014-2018, 2020-2022)					継続発展・サステナブル化				
			シラバス・カリキュラム・学則の整備 国際JDのための新専攻設置					韓国・延世大学との 博士JDプログラム				

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①: CAプラス)

表3 九州大学修士DDプログラム生の修学パターン

1年次												2年次											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
☆九州大学入学				☆サマースクール			☆国際セミナー等			☆スプリングセミナー					☆サマースクール			☆国際セミナー等	☆修士論文審査			☆九州大学修了	
				共通単位化(3単位・入学後に単位付与)	☆留学先大学入学										(共通単位化(3単位))							☆留学先大学修了	
					←留学先に滞在																		
					留学先の必修単位等修得(≥14単位)																		

【計画内容】

() 実渡航による交流

海外渡航が可能な環境下においては、Three in one moduleと称する3つの海外渡航に伴う活動：(1) 1セメスターの留学，(2) サマースクール，(3) 本プログラムが主催する国際セミナー・シンポジウム等，を実施する。これら3つのプログラムは、海外での滞在期間が4～5ヶ月，約2週間，1週間未満と違いがあり，長期から短期まで様々な形式を用意することで，学生の希望に応じて柔軟なプログラム参加形態（DD，非DD，単プログラムへの参加）をとることができる。また，DDの取得にはThree in one module全てへの参加が必須であり，以下のようにこれらは3つがそれぞれ異なる経験値として学生の成長に有意義な体験となる。

留学（1セメスター）：

異国の教育システムを体験するだけでなく，現地で生活して初めて感じることのできる文化や社会構造の違い等，国内に留まっただけでは学ぶことができない知識と経験を得ることができる。さらに，日本人学生にとっては海外から日本を見ることによって，日本の国際的な立場や責任を明瞭に理解する機会となり得る。

サマースクール（約2週間）：

学生達が寝食を共にして集中講義やグループワークに取り組む。学生同士の連帯感を強め，より濃密な人間関係を築くことができるイベントであり，プログラム修了生のネットワークを強固にすることにもつながる。サマースクールはキャンパス・アジアプラスで構築する4大学コンソーシアム以外にもオープンにし，国内他大学生も含めた幅広いネットワークづくりの場とする。

国際セミナー・シンポジウム（1週間未満）：

プログラムの一環として3大学の持ちまわりで開催するCross Straits Symposium on Energy and Environmental Science and Technology (CSS-EEST)や，コンソーシアム内の大学が主催・共催する国際会議に参加する。これらは基本的にCAMPUS Asia EEST以外にもオープンであり，諸外国からの参加者も多い。これら国際セミナー・シンポジウムでは，学術的なディスカッションの場を経験できるだけでなく，アジアに留まらず世界中の国からの参加者と広く交流できるというメリットがある。

全学イベントへの参加

九州大学では，1枚のスライドのみを使って3分間で自分の研究を英語でプレゼンテーションする3 Minute Thesisコンペティションや，アジアとのつながりを深めるイベント・Kyushu University Asia Weekなど，本プログラム生が参加すれば交流の幅をさらに広げることができるイベントを開催している。これらのイベントへの参加・協力を通じて，全学的なレベルで本プログラム生に対する教育効果を高める。

(大学名：九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

博士課程の交流促進

国際セミナー・シンポジウムは、国際的な研究者コミュニティの中で自らの研究に関連する情報収集・情報交換が可能な場であるため、博士課程学生を積極的に参加させる。エネルギー環境理工学に関連する前述の国際セミナー・シンポジウムは、既存の学術分野としては機械、電気電子、材料、化学など広い分野をカバーしており、知識の幅を広げることに役立つ。さらに、これらの国際セミナー・シンポジウムには教員の参加を呼びかける。一般的に、国際会議における研究者同士の交流が広い意味での共同研究の発端となり得るので、本プログラムにおいても4大学の教員同士が直接コミュニケーションする機会を作り、博士DDや研究インターンシップの前提として必要となる教員間の研究マッチングを進める。

新型コロナウイルス感染症影響下における学生支援の状況

九州大学大学院総合理工学府では、過去10年間のキャンパス・アジア事業およびその他の国際化プロジェクトにおける学生の海外派遣・留学生の受入の経験を蓄積しており、かつ、2020年度の新型コロナウイルス感染拡大下における入国手続き支援および隔離措置に対して十分な対応体制を敷いている。特にキャンパス・アジア事業に関してはキャンパス・アジアオフィスが学生の派遣・受入の支援や学生への情報提供・相談などの業務を行なっている。また、派遣先である釜山国立大学では本学と同様にキャンパスアジア専任スタッフが学生支援に当たっている。上海交通大学では国際部の統括の下、担当専攻である機械工学及び環境工学の事務職員が学生支援を担当している。このように、KU, PNU, SJTUにおける学生支援体制は整備されており、今後UTMにも同様な支援体制を構築する。

2025年度の計画

留学・国際交流	開催地・渡航先
修士DD留学 博士DD/非DD留学	九州大学 (KU) 釜山国立大学 (PNU) 上海交通大学 (SJTU) マレーシア工科大学 (UTM)
サマースクール (SS)	PNU
国際セミナー: CSS-EEST/IMAT	UTM

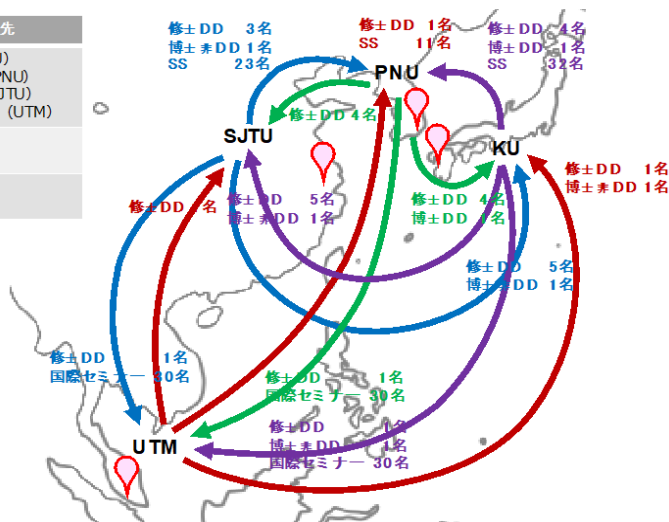


図2 実渡航による4大学間の人的交流の例

海外渡航が不可能な場合は、実渡航で予定しているプログラムを全てオンラインに切り替える。2020年度は、新型コロナウイルス感染症パンデミックのためにサマースクールおよびCSS-EESTをオンラインで実施した。これら以外にも学会等のセミナーやシンポジウムがオンラインで開催されており、キャンパス・アジア担当教員はオンラインによるイベント開催のノウハウを蓄積している。さらに、留学が不可能な状況においてもDDの取得を可能とするために、KU, PNU, SJTUはすでに渡航なしのDDに同意し、協定書を改定した。渡航なしDDの場合、修士論文の副指導教員となる派遣先受入教員と学生との関係構築が重要であるが、すでに多くの教員がオンライン講義やオンラインによる研究室ゼミの開催を経験しており、かつ、研究室所属の新入留学生が来日できずにオンラインのみで研究指導を開始するという状況はキャンパス・アジア留学生に限ったことではない。このように、ほぼ全ての教員はオンラインによる教育・研究指導を経験しているため、オンラインのみによるプログラムの実施が可能である。

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①: CAプラス)

加えて、オンラインのみの場合における教育効果を高めるために、1 Semester留学の際に派遣先研究室で実施する調査研究等の演習に相当するオンライン演習を開発する。学生の修士論文テーマの周辺の分野について、文献調査及び社会や産業に繋がる課題を設定し、調査研究に取り組みさせる。そして、派遣先受入教員の研究室ゼミ等にオンラインで参加し、成果を発表する。学生は派遣先受入教員とオンラインで定期的に面談して課題設定や進捗報告を行い、また、研究室のオンラインゼミ等にも定期的に参加する。実渡航ができない状況であっても、この演習を通じて受入教員及び研究室学生との実質的な交流機会が増加し、研究室の一員としての実感を高めることができると考えている。本事業においてはオンライン演習の単位化等の手続きを進め、研究室演習のオプションの一つとしてメニュー化する。また、UTMとのDDを開始するまでの間にUTM学生とKU教員との間でもオンライン演習を試行する。

() 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

実渡航が可能な環境下においてもオンラインを活用し、従来のプログラムよりもさらに広域な国際交流を促進する。特に、これまではThree in one moduleに含まれる短期滞在プログラムとして実施していたスプリングセミナーを今後はオンラインで開催する。オンライン化によって時間と場所の制約が軽減されるため、CAMPUS Asia EESTに主体的に関わる組織以外からも講師を招聘しやすくなる。そこで、アジアの文化、アントレプレナーシップ、工学倫理、環境経済学等の科目について、専門家による講義を取り入れ、文理融合を志向したプログラム構成を検討する。また、日中韓マレーシア以外の国からの参加も容易になるため、時差の考慮は必要であるがアジア以外の地域から講師を招き、異文化について学習する機会を設ける。また、日本国内から講師を招く場合であっても時間の調整がしやすくなるため、企業の経営者や最先端分野の研究者等、様々な分野で活躍されている方に講演をしてもらうことができる。また、学生同士の交流やアジアの文化を学ぶ機会としてもオンラインの活用を考えている。例えば、4大学の学内の様子や異国の文化・習慣等をリアルタイムで紹介し、学生同士の文化交流につなげる。これらのプログラムを実施すれば、従来の活動よりも幅広い分野や地域に学生の視野を広げることができる。

また、1 Semesterの留学期間の間に、留学先大学だけでなくコンソーシアム内の他大学学生とも交流を促進できるように、オンラインを活用した学生同士の交流イベントを実施する。例えば、留学中の大学内や周辺の街の様子をお互いに紹介したり、学業に関する情報交換を行ったりすることで、留学先だけでなくCAMPUS Asia EESTに参加する全ての学生との交友を深める機会を作ることができる。

COIL型教育の開発と実践

COIL (Collaborative Online International Learning) とは、オンラインツールを活用して海外の大学と協働教育を実施する手法であり、実渡航が叶わない状況においても学生及び教員の国際交流を充実化できる手法として注目されている。本プログラムでは、オンラインで開催した2020年度のサマースクールにおいて、学生を日中韓混合のグループに分け、与えたテーマに関するディスカッションとプレゼンテーションを1日3時間×3日にわたる演習として実施した。この演習は、図らずもCOIL型教育の手法に準じた内容になっている。実渡航によるサマースクールでも同様な演習を実施しているが、COIL型教育を取り入れることで、学生同士の交流をより活発にし、学習成果の実体化につながると考えられる。そこで、本事業から完全オンライン化するスプリングセミナーでCOIL教育を実践する。加えて、DD生が母大学で学ぶ専門分野と本プログラムで学ぶエネルギー環境理工学とを効果的に接続するためのCOILモジュールの開発も行う。DD生が学ぶ必修科目や修士論文に関連する内容でPBL型のコースを1クォーター（全8回程度）で開講し、実渡航で開催するサマースクールと連携したブレンDED教育型のモジュールとする。

これらのCOILモジュールは、4大学の教員が協働して開発し、スプリングセミナーやサマースクールの中でCOIL型教育を試行的に進める。そして、2024年度から本格的に実施することを目標とする。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

⑤ 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成 【4 ページ以内】

【実績・準備状況】

キャンパス・アジア第1期を開始するにあたり、KU、PNU、SJTUの3大学は質保証を伴った教育プログラムの設計に向けて、国際PDCA委員会において十分な検討と議論を重ねた上で現在実施しているプログラムの基礎を構築した。本プログラムの大きな特徴は、通常の修士課程修業年限内に1 Semester（4～5ヶ月）の留学を含むダブルディグリー課程を修了し、2つの大学の学位を取得できることにある。教育の質を保証した上で一般的なDDよりも短期間での学位取得を実現するために、キャンパス・アジア事業第1期、第2期を通じて、単位互換や協働科目の設定、修論の共同審査体制の構築を進め、現在は正規プログラムとして運用されている。修士DDの質の保証のためには、以下の表に挙げる取り組みを行なっている。

表4 修士ダブルディグリーの質保証のための取り組み

質保証のための取り組み	
入学者選考	<ul style="list-style-type: none"> ● 母大学で面接を実施し、その評価に基づいて推薦 ● 留学先大学における選考で最終決定
講義	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の協働実施と相互単位認定、単位認定基準の明確化 ● 成績評価システムの規格化
修士論文	<ul style="list-style-type: none"> ● 母大学における事前審査（指導教員） ● 両大学の合同審査（母大学指導教員、留学先受入教員、その他審査委員による審査会） ● 3段階の審査過程（修論中間審査、修論発表審査、論文最終審査）

このように、DDへの入コースから学位取得まで母大学と留学先大学の双方が審査に関わり、両大学の学位取得条件を満足することでDDを与えている。

教育体制

九州大学大学院総合理工学府ではキャンパス・アジアプログラムだけでなく、2012年から2018年まで補助事業（博士課程教育リーディングプログラム）で実施したグリーンアジア国際戦略プログラム等を通して大学院教育の国際化を促進し、既に複数の専門科目を英語で講義している。また、学府には理工系分野をバックグラウンドとする複数の外国人教員が教育に携わっている。特に、キャンパス・アジアプログラム関連科目の多くは九州大学の承継教員ポストで雇用される韓国人教員および中国人教員が講義するが、同教員は講義だけでなくプログラム全般を担当しており、それぞれPNU、SJTUとの間の学生派遣・受入に伴う修学相談等、学生の支援も行なっている。さらに本事業で新たにコンソーシアムに加わるUTMとの間の学生派遣・受入に関しては、ASEAN参加国であるミャンマー出身者で、かつ、シンガポール国立大学で博士学位を取得した九州大学承継教員が学生をサポートする。

また、九州大学では英語による講義やオンライン講義の質向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントを定期的に行っており、総合理工学府においてもそれらを利用して学府全体の教育能力向上に努めている。

キャンパス・アジア第1期・第2期修了生の就職先とプログラムに対する修了生の評価

図3は九州大学を母大学とする修士DDおよび非DD修了生の進路を示している。近年は、研究室へのOB訪問や業界セミナーなど実質的な就職活動が11月頃から始まってしまったため、修士1年次の後期に留学するDDプログラムに対して就職活動における不利を心配する声が学生から上がっていたが、実際には就職活動における不利益はほとんど見られず、理工系学生の希望する業種に就職している。就職先業種の比率は、CAMPUS Asia EESTに参加していない九州大学総合理工学府の学生と顕著に異なるとは考えられないが、グローバルに展開している企業への就職が多く、就職後の活躍が期待できる。また、図3に明示していないが外資系のメーカーやコンサルタント会社への就職例（就職者の6%）もある。さらに、PNU、SJTUからKUに留学したDD修了生が日本のメーカーや海外のグローバル企業に就職した例は少なくない。このように、本プログラム修了生が母国に限らず国際的な活躍の機会が得られる企業に就職できていることは、本プログラムの重要なアウトカムである。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

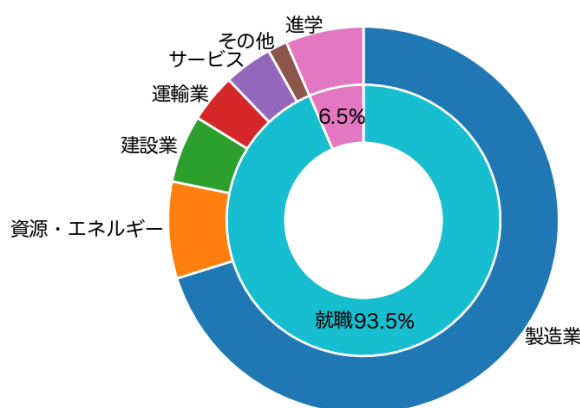
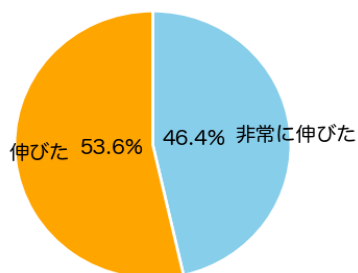


図3 九州大学を母大学とする修士DD・非DD修了生の進路

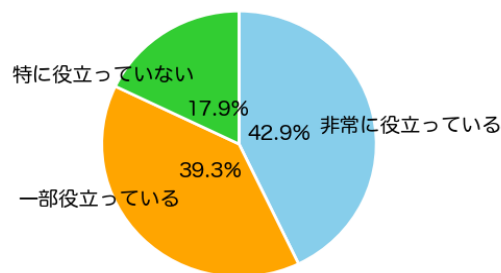
DD取得者に対する追跡調査として、図4に示すアンケートも実施した。アンケート回答者は2012年度から2017年度にキャンパス・アジア DDプログラムに入学してDDを取得した九州大学を母大学とする学生であり、有効回答数は28（この間のDD取得者数は31）である。アンケート回答者全てが英語コミュニケーション力の向上を実感していることがわかる。また、本プログラムで獲得した英語コミュニケーション力は、就職活動や現在の仕事で役立っているとの回答が約8割を占めた。個別のコメントでは、キャンパスアジアに参加することで習得できたこととして「異なる文化・宗教・言語・生活様式への理解度の向上」「外国語を使って会話することに対する自信」「物事を主体的にやり通す力、相手の気持ちを察する力(言語、非言語共に)、自分の考えを伝える力、考え方の違いを受け入れる力」「様々なバックグラウンドに対する理解、異なる環境下で学位を取得するため養われた、計画性・ガッツ」などが挙げられており、英語力、コミュニケーション力だけでなく、異文化への理解や物事をやり通す力を学生達が身につけていることが確認できた。

なお、本プログラムでは修了生に対する調査に加えて、プログラムの教育効果を客観的に評価するために、外部評価委員会による評価を毎年実施し、プログラムの改善に努めている。

キャンパスアジアに参加して、英語でのコミュニケーション力が伸びましたか？



就職活動に、英語でのコミュニケーション力が役立ちましたか？



現在の仕事において、英語でのコミュニケーション力が役立っていますか？

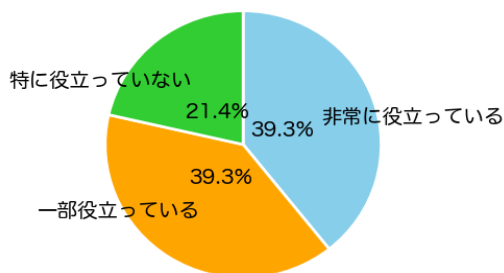


図4 九州大学DD取得者へのアンケート結果

(大学名：九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

【計画内容】

(i) 実渡航による交流

KU, PNU, SJTUの3国間における実渡航による交流はこれまでの実績があり問題はない。UTMとの間の実渡航は、渡航費・滞在費が大きな課題となる。そのため、DDおよび非DDの交流は予算規模に応じて人数を制限する。しかしながら、オンラインを活用し、サマースクールやCSS-EESTにおける交流は十分に実施できるように工夫する。

これまで3大学の持ち回りで開催していた国際セミナー（CSS-EEST）は、UTMを含めた4大学の持ち回り開催とする。UTMは国際会議の開催実績もあり、CSS-EESTを主催することについては、UTM側の同意を得ている。今後、参加者の宿泊先の確保など具体的な項目を打ち合わせる。2023年度から計画しているDD生のUTM派遣に関しても、現地における学生支援体制の構築等の準備を進める。これらは、CAMPUS Asia EESTで培ったノウハウを提供することで、UTMにおける運営体制をスムーズに整えることができると考えている。

教育の質の保証

既存のCAMPUS Asia EESTプログラムを構築するにあたって、九州大学、釜山国立大学、上海交通大学の3大学コンソーシアムはアドミッション/カリキュラム/ディプロマポリシーや修士課程教育システムの比較を行い、各大学のポリシーに従って教育の質を担保するダブルディグリーコースの基本設計を行った。その後、キャンパスアジア事業第1期、第2期を通して成績管理や学位授与に関する制度を確立するとともに、教育体制や学生支援等の整備を進めてきた。本事業では、教育の質保証の観点を中心に検討して設計されたCAMPUS Asia EESTプログラムをマレーシアに展開し、マレーシア工科大学（UTM）を含む4大学のCAMPUS Asia EESTを実施することで、質の保証を伴った大学間国際交流の輪をASEANに拡大する。

UTMはマレーシアにおける高等教育機関の質を管理・保証する機関である「マレーシア資格機構（Malaysian Qualifications Agency: MQA）」の認証を受けている。UTMの大学院レベルの教育プログラムでは、マレーシア資格枠組み（MQF）に対応した博士号、修士号、ディプロマの取得が可能である。したがって、これまでに本プログラムで構築した枠組みをUTMに適用してダブル・ディグリープログラムを開設する場合、教育の質の保障の面で大きな困難はないと予想される。PDCA委員会において検討を重ね、UTMを含めたダブルディグリーに関する制度設計と環境整備を本事業の中間評価までに着実に進める。

(ii) オンライン交流

九州大学ではオンライン講義で使用する設備の充実化を進めると同時に、講義内容そのものについてもファカルティ・ディベロップメント等によって、オンラインによる教育プログラムの質向上に努めている。また、文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」にも採択され、教育におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進を目指した各種取り組みをスタートさせている。総合理工学府はこの取り組みの一つのモデルとして、PBL教育用のデジタル教材・教育プログラムの開発と実施を九州・沖縄地域の高等専門学校と進めており、今後これらのモデルで培われるノウハウや教育プログラムをCAMPUS Asia EESTに取り入れてオンライン教育の充実化と質向上を図る。

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①: CAプラス)

一方で、実渡航が不可能な状況下においては、ただオンライン講義を受けているだけでは実渡航による留学体験と同等な教育効果は得られない。そこで、以下に挙げる取り組みを実施する。

留学生と受入教員の関係構築：

派遣先大学の受入予定教員の指導の下で調査研究等の演習に取り組み、定期的にオンラインで進捗報告をする。また、受入予定教員の研究室ゼミ等にオンラインで参加する機会を与える。加えて、キャンパスアジア担当教員による面談の機会を増やし、修学全般に関する相談などを受ける体制を整える。

学生同士の交流促進：

4大学混合のチームでグループワークに取り組み、プレゼンやディベートを行う機会をスプリングセミナー、サマースクール等の中で実施する。例えば、スプリングセミナーで課題を与え、サマースクールで成果発表をするなど、数ヶ月の間、学生同士が定期的にオンラインで打ち合わせをするような演習として設定する。

異文化体験・理解：

例えば文化祭のように各大学のグループがそれぞれの文化、食べ物、スポーツ、音楽、生活などを紹介するオンラインイベントをスプリングセミナーで企画する。各大学内のサークルや学生組織にも協力を依頼し、キャンパスアジア参加学生以外にも交流の輪を広げる。

以上に加えて、前述のCOIL型教育を取り入れ、プログラム生の学習効果だけでなく、文化交流の促進や修了後の人的ネットワークの構築につながるように、オンラインを積極的に活用して交流を活発化させる。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

スプリングセミナーはオンライン開催を常態とし、実渡航が可能な場合であっても前述した学生のグループワークや異文化体験イベントを開催する。これらのイベントは、学生同士の交流を深め、修了後の同窓会ネットワークをより強固にする効果が期待できるとともに、様々な意見やバックグラウンドを持つ人と議論をし、意見を集約して目標を達成する訓練として高い教育効果があると考えられる。4大学の学生が容易に集合して議論できることがオンラインのメリットであるため、実渡航が可能な場合もオンラインを活用してこのような取り組みを実施する。

既存のカリキュラムにCOIL型教育を取り入れた場合のイメージを下図に示す。このようなブレンデッド型カリキュラムの構築を目標とする。

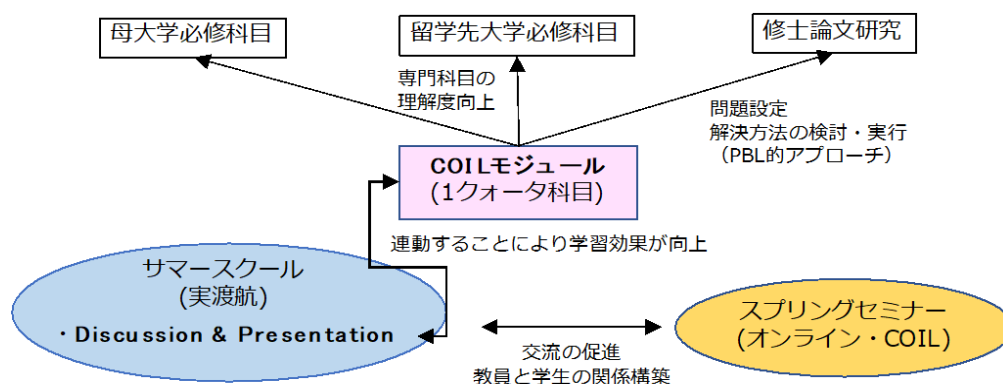


図5 COIL型教育を取り入れたカリキュラムのイメージ

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

達成目標 【①～④合わせて7ページ以内】

① 将来の関係を見据えた連携強化に資する目標について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)

CAMPUS Asia EESTプログラムで育成する高度研究者・技術者は、エネルギー・環境問題に関わる科学技術分野でグローバルに活躍する人材である。エネルギー・環境問題の解決には、再生可能エネルギー利用技術や高効率エネルギー変換等、エネルギー利用の上流側の研究開発と同時に、下流側となるエネルギー利用においても、省エネルギー及び環境負荷低減に取り組むことが不可欠である。上流側技術に関しては、日中韓を含む高度な産業技術を有する国々がリードすべきであり、下流側に関しては、多大な人口を抱える中国やASEAN諸国が今後のエネルギー消費の増大と環境への影響をいかに抑制するかという視点が極めて重要である。したがって、日中韓とASEANが一体となってエネルギー環境分野の高度専門人材を育成することは、理にかなっている。

以上の観点から、本事業計画の達成目標は以下の通りである。

- キャンパス・アジアプラスの枠組みの中で日中韓+マレーシアによるダブルディグリーを含む教育プログラムを構築し、アジア全域をホームグラウンドとするグローバル人材を養成する。
- 博士課程学生の留学機会を拡大し、豊富な国際経験を有する高度専門人材を育成する。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

マレーシアUTMを含めた4大学によるダブルディグリープログラムで2023年度から学生受け入れを開始するために、教育の質保証、運営体制、学生の受入環境等を整備し、ダブルディグリー協定を締結する。

② 養成しようとするグローバル人材像について

(i) 事業計画全体の達成目標 (事業開始～2025年度まで)

エネルギー・環境問題に関わる科学技術分野でグローバルに活躍する高度研究者・技術者、すなわち、「エネルギー環境理工学グローバル人材」の養成を目指す。特に、次の4つに重点を置いて人材育成を行う。

1. 専門分野の深い知識の修得とそれに基づく研究開発能力
2. エネルギー環境問題の現状の理解と問題解決に向けた思考力
3. グローバルに活動するために必要な英語力
4. 自国及び異国の文化・人・社会の理解と国際感覚

英語の能力としては、日常的なコミュニケーションに必要な英語力の基準としてTOEIC公式スコア650点以上（またはそれに相当するTOEFL公式スコア）、ビジネスの場でのコミュニケーションに必要な英語力の基準として、TOEIC公式スコア730点以上（またはそれに相当するTOEFL公式スコア）と設定し、その基準を上回る学生数の目標を③-1に定めた。

博士課程においても研究を中心としたグローバル人材育成をダブルディグリーまたは研究インターンシップで可能とするプログラムの構築を図る。

(ii) 中間評価までの達成目標 (事業開始～2022年度まで)

- UTM教員との連携を強化し、ASEANを含む国際交流及びグローバル人材養成の基盤を構築する。
- オンラインを活用した教育プログラムの内容を充実化する。
- 本事業から新たに開始するオンライン演習、スプリングセミナーにおける文化交流等を試行し、内容の高度化を計る。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

③-1 学生に修得させる具体的能力のうち、一定の外国語力基準をクリアする日本人学生数の推移について

(i) 本事業計画において定める外国語力基準及び同基準をクリアする学生数に関する達成目標

単位：人（延べ人数）

	外国語力基準	達成目標	
		中間評価まで (事業開始～ 2022年度まで)	事後評価まで (事業開始～ 2025年度まで)
	【参考】本事業計画において派遣する日本人学生数	135（延べ人数）	340（延べ人数）
1	EESTコース修了生のうち、TOEIC 650 点の基準をクリアする学生数	12人/17人	40人/50人
2	EESTコース修了生のうち、TOEIC 730点の基準をクリアする学生数	5人/17人	20人/50人
3			

(ii) 外国語力基準を定めた考え方

日常的な英語コミュニケーション能力の基準としてTOEIC 650点以上（または相当するTOEFLスコア）、ビジネスの場での英語コミュニケーション能力の基準として、TOEIC 730点以上（または相当するTOEFLスコア）と設定した。キャンパスアジア第2期の成果として、DD生の約70%がTOEIC 650点をクリアした一方で、730点をクリアした学生は30%にとどまった。そこで、650点をクリアする学生の割合が80%、730点をクリアする学生の割合が40%を最終年度までの目標とする。

(iii) 事業計画全体の目標達成に向けたプロセス（事業開始～2025年度まで）

- DD 生として派遣予定の九州大学学生には、留学前に全15回2単位相当の英語実践教育を実施する。
- 英語で開講されるエネルギー環境理工学分野の講義3科目を必修とし、英語講義の理解を深めるように訓練する。
- サマースクールとスプリングセミナーでは、英語による講義の受講に加え、学生同士で英語によるディスカッションやディベートを行わせ、英語コミュニケーション能力向上をはかる。
- 在学中に数回、TOEIC テストを受験させて英語力の推移をフォローし、日常的なコミュニケーションに必要な基準として設定した 650 点を 80%の学生がクリアすることを達成目標とする。
- 日本人が苦手とする積極的に発言する力は、留学によって確実に上昇していることは明確になっているが、TOEICでは測定が難しい。そこで、英語コミュニケーション能力テスト等を活用し、TOEICとは別の評価軸による能力測定を試行する。

(iv) 中間評価までの目標達成に向けたプロセス（事業開始～2022年度まで）

キャンパス・アジア第2期終了時点で、DD生のうち約70%がTOEIC 650点を、約30%が730点をクリアしたが、母数が大きくないため、新入生のスコアのばらつきが比率に大きく影響する。また、2020年度以降はTOEICの受験機会が制約されているために、基準スコアの達成状況を正確に把握できていない。そのため、2019年度に達成されている650点以上が70%、730点以上が30%の維持を中間評価するまでの目標とする。また、TOEICでは正確に測ることのできない「発言力」を含めた能力向上の指標を評価するために、英語コミュニケーション能力テスト等を利用した評価方法を試行する。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)□

③-2 学生に修得させる具体的能力のうち、「③-1」以外について**(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）**

エネルギー環境理工学分野の専門知識を修得させる。DD 取得のためには、母大学及び派遣先大学の両方で修了要件を満足する必要がある。両大学で学習する専門科目に加えて、サマースクールの集中講義やセミナーで提供されるエネルギー環境理工学科目6単位の修得が要件となっている。同科目は、非DD生のコース修了要件でもある。これら科目の履修によって、学生自らが選択した専門分野だけでなく、エネルギー環境理工学分野における幅広い知識を学生が修得することを目指す。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

中間評価が予定されている2022年度末には、2021年度に入学した DD生、非DD生が修了する予定である。学生の授業レポート等を通じ、学生がエネルギー環境理工学分野の知識を修得し、それを基盤として自らの専門性を深めることができているかを評価する。必要であれば、サマースクールにおける集中講義の内容等を再構築する。

④ 質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成及び拡大に向けた具体的な取組について**(i) 事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）**

質保証を伴う国際交流プログラムとして構築したCAMPUS Asia EESTをマレーシア工科大学に展開し、4大学のキャンパス・アジアプラスプログラムとして実施する。オンラインを有効に活用し、教育プログラムの高度化とコスト面における効率化の達成を目指す。

(ii) 中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）

UTMにおける教育の質保証やDD生の派遣・受入の準備体制を整える。2022年度中にダブルディグリーに関する協定を締結することを目指す。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A① : CAプラス)□

⑤ 本事業計画において海外に留学する日本人学生数の推移【1ページ以内】

現状（2020年5月1日現在）※1 （単位：人） 実渡航：0、オンラインで受講：3

(i) 日本人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	340
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	135

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	50	69	44	43	75	281
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	16	19	20	0	55
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	0	0	2	2	4
合計人数	50	85	63	65	77	340

(a) 実渡航による交流

1. 修士DD取得を目指した交換留学

2021年度秋期に派遣する学生は既に募集済みであるため、実人数を記入した。2022年度以降はCA第2期の実績をもとに、毎年SJTUとPNUに5名ずつ派遣する予定である。中間評価までにUTMとのDD制度を構築し、2023年度から毎年UTMに2名を派遣する。

2. 博士DD取得を目指した交換留学

2021年秋期に募集を開始し、2022年度から毎年1名の派遣を計画している。

3. 博士学生の中長期交換留学

高度な専門性を持つ人材の国際交流を促進するため、博士DDを実施していないSJTUとUTMに博士研究インターンシップ生をそれぞれ毎年1名派遣する。2021年度は募集期間を考慮し最長3か月の交換留学を目指す。博士レベルの教育研究交流の質保証のため、2022年度から派遣期間を5か月に延長する。

4. 夏マースクールには、修士DD生は参加が必須である。非DD生の場合は選択参加とする。また、サマースクールのオープン化により、プログラム生以外の参加も想定している。過去の実績に基づき、サマースクールへの派遣人数はDD生人数プラス10名と計画している。

5. 秘期セミナー（CSS-EEST等）への派遣人数は、過去の実績を参考にして毎年30名とした。ただし、2021年度はCSS-EESTの他にUTMで開催されるIMATへの派遣も計画し、それぞれの派遣人数を30名と10名とした。

(b) オンライン交流

スプリングセミナーを活用して4国間の文化交流の機会を設ける。多数学生を参加させるため、実現性と予算を考え、スプリングセミナーをオンラインで開催する。派遣人数は修士DD生の人数に準じて計画している。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

完全オンライン化するスプリングセミナーでCOIL教育を実践することに加えて、DD生が母大学で学ぶ専門分野と本プログラムで学ぶエネルギー環境理工学とを効果的に接続するためのCOILモジュールを開発する。DD生が学ぶ必修科目や修士論文に関連する内容でPBL型のコースを開講し、実渡航で開催するサマースクールと連携したブレンデッド教育型のモジュールとする。これらのCOILモジュールは、4大学の教員が協働して開発し、スプリングセミナーやサマースクールの中でCOIL型教育を試行的に進め、2024年度からの本格実施を目指す。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

⑥ 本事業計画において受け入れる外国人学生数の推移【1 ページ以内】

現状（2020年5月1日現在） 1 （単位：人） 実渡航：0、オンラインで受講：3

(i) 外国人学生数の達成目標

単位：延べ人数

事業計画全体の達成目標（事業開始～2025年度まで）	263
中間評価までの達成目標（事業開始～2022年度まで）	40

(上記の内訳)

(ii) 目標を設定した考え方及び達成までのプロセス（事業計画全体、中間評価までの双方について）

単位：人

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
実際に渡航する学生	8	12	88	70	13	191
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	20	0	0	0	42	62
実渡航とオンライン受講を行う学生	0	0	0	5	5	10
合計人数	28	12	88	75	60	263

(a) 実渡航による交流

1. 修士DD取得を目指した交換留学

2021年度秋期に受入をする学生は既に募集済みであり、実人数を記入した。2022年度以降はCA第2期の実績をもとに、毎年SJTUとPNUから5名ずつの受入を計画している。中間評価までにUTMとのDD制度を構築し、2023年度から毎年UTMから2名を受け入れる。

2. 博士DD取得を目指した交換留学

2021年秋期から募集を開始し、2022年度から毎年1名の受入を計画している。

3. 博士学生の中長期交換留学

高度な専門性を有する人材の国際交流を促進するため、博士DDを実施していないSJTU及びUTMから博士研究インターンシップ生をそれぞれ毎年1名受け入れる。2021年度は募集期間を考慮し、最大3か月の交換留学を目指す。博士レベルの教育研究交流の質保証のため、2022年度から受入期間を5か月に延長する。

4. 罍マースクールには、修士DD生は必須参加であり、非DD生は選択参加とする。また、サマースクールのオープン化により、プログラム生以外の参加も想定している。過去の実績に基づき、受入人数はそれぞれ相手大学のDD生人数プラス5名と計画している。

5. 秘期セミナー（CSS-EEST）の受入人数は、過去の実績を参考にして、SJTUとPNUからそれぞれ30名とした。また、UTMからは15名を受入予定である。

(b) オンラインによる交流

スプリングセミナーを活用して4国間の文化交流の機会を設ける。多数学生を参加させるため、実現性と予算を考慮し、スプリングセミナーはオンラインで開催する。受入人数は各相手大学の修士DD生人数に準じて計画している。

(c) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

完全オンライン化するスプリングセミナーでCOIL教育を実践することに加えて、DD生が母大学で学ぶ専門分野と本プログラムで学ぶエネルギー環境工学とを効果的に接続するためのCOILモジュールを開発する。DD生が学ぶ必修科目や修士論文に関連する内容でPBL型のコースを開講し、実渡航で開催するサマースクールと連携したブレンド教育型のモジュールとする。これらのCOILモジュールは、4大学の教員が協働して開発し、スプリングセミナーやサマースクールの中でCOIL型教育を試行的に進め、2024年度からの本格実施を目指す。

※1 現状は、事業の取組単位（全学、学部等）における2020年5月1日現在の人数。

(大学名：九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

⑦ 交流学生数について（2021年度は事業開始以後の人数）

（単位：人）

(i) 本事業で計画している交流学生数

中国側大学	韓国側大学	ASEAN側大学
218	274	111

(i) -1: プログラム全体の派遣・受入交流学生数

各年度の派遣及び受入合計人数 (交流期間、単位取得の有無等の内訳は(iii)表参照)	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	50	28	85	12	63	88	65	75	77	60	340	263
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	50	8	69	12	44	88	43	70	75	13	281	191
自国にて国際教育・交流プログラム をオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)							2	5	2	5	4	10

(i) -2: 日中韓の三カ国共通の財政支援の有無及び交流相手国・地域別 内訳

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
三カ国共通の財政支援対象 となる交流学生数	30	8	30	9	19	8	17	11	14	10	110	46	
交流相手国 中国	実渡航	2	3	14	4	13	3	1	2	1	1	31	13
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国	実渡航	17	4	15	4	4	3	12	2	5	2	53	15
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 ASEAN	実渡航	11	1	1	1	2	2	2	2	6	2	22	8
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国 及び 韓国	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国 及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 韓国 及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド											0	0
交流相手国 中国、 韓国及び ASEAN	実渡航											0	0
	オンライン											0	0
	ハイブリッド							2	5	2	5	4	10
自己負担または大学負担等 による交流学生数		20	20	55	3	44	80	48	64	63	50	230	217
	実渡航	20	0	39	3	25	80	28	64	63	8	175	155
	オンライン	0	20	16	0	19	0	20	0	0	42	55	62
	ハイブリッド											0	0

(大学名: 九州大学①)

(タイプ A①: CAプラス)

(ii) 国内大学及び交流プログラムごとの交流学生数

交流形態	①	単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	A	実渡航
	②	単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	B	オンライン
	③	単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	C	ハイブリッド
	④	上記以外の交流期間30日未満の交流		
	⑤	上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流		
	⑥	上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流		

1. 【代表申請大学】

大学名		九州大学																
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
上海交通大学	派遣	①							31									31
上海交通大学	受入	①										23						23
上海交通大学	派遣	③	1			5			5			5			5			21
上海交通大学	受入	③	2			5			5			5			5			22
上海交通大学	派遣	④				30							20					50
上海交通大学	受入	④		7					30								18	55
上海交通大学	派遣	⑥	1			1			1			1			1			5
上海交通大学	受入	⑥	1			1			1			1			1			5
釜山大学校	派遣	①				27											32	59
釜山大学校	受入	①										23						23
釜山大学校	派遣	③	6			5			5			5			5			26
釜山大学校	受入	③	4			5			5			5			5			24
釜山大学校	派遣	④	30							19		30						79
釜山大学校	受入	④		8					30								18	56
釜山大学校	派遣	⑥	1															1
マレーシア工科大学	受入	①										11						11
マレーシア工科大学	派遣	③							1			1			1			3
マレーシア工科大学	受入	③							1			1			1			3
マレーシア工科大学	派遣	④	10				16								30			56
マレーシア工科大学	受入	④		5					15								6	26
マレーシア工科大学	派遣	⑥	1			1			1			1			1			5
マレーシア工科大学	受入	⑥	1			1			1			1			1			5
上海交通大学、釜山大学校、マレーシア工科大学	派遣	③												2			2	4
上海交通大学、釜山大学校、マレーシア工科大学	受入	③												5			5	10

2. 【国内連携大学等】

大学名																		
交流プログラム名 (相手大学名)	交流方向	交流形態	2021年度			2022年度			2023年度			2024年度			2025年度			合計
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	
	派遣																	0
	受入																	0
	派遣																	0
	受入																	0

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①: CAプラス)

(iii) 本事業で計画している交流学生数（派遣・受入別 各内訳の集計）						
【日本人学生の派遣】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	50	85	63	65	77	340
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	27	31	0	32	90
実渡航		27	31		32	90
オンライン						0
ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	7	10	11	13	13	54
実渡航	7	10	11	11	11	50
オンライン						0
ハイブリッド				2	2	4
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	40	46	19	50	30	185
実渡航	40	30		30	30	130
オンライン		16	19	20		55
ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	3	2	2	2	2	11
実渡航	3	2	2	2	2	11
オンライン						0
ハイブリッド						0

(大学名： 九州大学①)

(タイプ A①：CAプラス)

【外国人学生の受入】	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
年度別合計人数	28	12	88	75	60	263
【交流形態別 内訳】						
① 単位取得を伴う交流期間30日未満の交流	0	0	0	57	0	57
実渡航				57		57
オンライン						0
ハイブリッド						0
② 単位取得を伴う交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
③ 単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流	6	10	11	16	16	59
実渡航	6	10	11	11	11	49
オンライン						0
ハイブリッド				5	5	10
④ 上記以外の交流期間30日未満の交流	20	0	75	0	42	137
実渡航			75			75
オンライン	20				42	62
ハイブリッド						0
⑤ 上記以外の交流期間30日以上3ヶ月未満の交流	0	0	0	0	0	0
実渡航						0
オンライン						0
ハイブリッド						0
⑥ 上記以外の交流期間3ヶ月以上の交流	2	2	2	2	2	10
実渡航	2	2	2	2	2	10
オンライン						0
ハイブリッド						0

(大学名： 九州大学①)

(タイプ A①：CAプラス)

(iv) 派遣・受入別 交流プログラム学生数の詳細

年度	交流期間		派遣元大学	派遣先大学	派遣相手国	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生 数	(内訳)		
									実渡航	オンラ イン	ハイブ リッド
2021	2021.9	~	2022.1	九州大学	上海交通大学	中国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2021.9	~	2022.1	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	6	6	
	2021.11	~	2021.11	九州大学	釜山大学校	韓国	CSS EEST	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	30	30	
	2021.11	~	2021.11	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	IMAT	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	10	10	
	2021.11	~	2022.3	九州大学	上海交通大学	中国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2021.11	~	2022.3	九州大学	釜山大学校	韓国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2021.11	~	2022.3	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
2022	2022.4	~	2023.2	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2022.8	~	2022.8	九州大学	釜山大学校	韓国	サマースクール	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	27	27	
	2022.9	~	2023.1	九州大学	上海交通大学	中国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5	
	2022.9	~	2023.1	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4	
	2022.9	~	2023.1	九州大学	上海交通大学	中国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2022.9	~	2023.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2022.11	~	2022.11	九州大学	上海交通大学	中国	CSS EEST	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	30	30	
2023	2023.2	~	2023.2	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	16		16
	2023.4	~	2024.2	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2023.8	~	2023.8	九州大学	上海交通大学	中国	サマースクール	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	31	31	
	2023.9	~	2024.1	九州大学	上海交通大学	中国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5	
	2023.9	~	2024.1	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4	
	2023.9	~	2024.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2023.9	~	2024.1	九州大学	上海交通大学	中国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
2024	2023.9	~	2024.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2024.2	~	2024.2	九州大学	釜山大学校	韓国	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	19		19
	2024.4	~	2025.2	九州大学	上海交通大学、釜山大学校、マレーシア工科大学	中国、韓国、マレーシア	COIL型教育を取り入れたハイブリッド型の交流(大学院生)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2		2
	2024.4	~	2025.2	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2024.9	~	2025.1	九州大学	上海交通大学	中国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5	
	2024.9	~	2025.1	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4	
	2024.9	~	2025.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
2025	2024.9	~	2025.1	九州大学	上海交通大学	中国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2024.9	~	2025.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2024.11	~	2024.11	九州大学	釜山大学校	韓国	CSS EEST	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	30	30	
	2025.2	~	2025.2	九州大学	上海交通大学	中国	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	20		20
	2025.4	~	2026.2	九州大学	上海交通大学、釜山大学校、マレーシア工科大学	中国、韓国、マレーシア	COIL型教育を取り入れたハイブリッド型の交流(大学院生)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2		2
	2025.4	~	2026.2	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2025.8	~	2025.8	九州大学	釜山大学校	韓国	サマースクール	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	32	32	
2025	2025.9	~	2026.1	九州大学	上海交通大学	中国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5	
	2025.9	~	2026.1	九州大学	釜山大学校	韓国	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4	
	2025.9	~	2026.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2025.9	~	2026.1	九州大学	上海交通大学	中国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2025.9	~	2026.1	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2025.9	~	2026.1	九州大学	上海交通大学	中国	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1	
	2025.11	~	2025.11	九州大学	マレーシア工科大学	マレーシア	CSS EEST & IMAT	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	30	30	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

年度	交流期間		派遣元大学	派遣相手国	派遣先大学	交流内容 (交流プログラム名等)	交流形態	交流 学生 数	(内訳)		
									実渡航	オンラ イン	ハイブ リッド
2021	2021.10	~ 2022.2	上海交通大学	中国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	2	2		
	2021.10	~ 2022.2	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
	2021.12	~ 2022.2	上海交通大学	中国	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2021.12	~ 2022.2	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.2	~ 2022.2	上海交通大学	中国	九州大学	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	7		7	
	2022.2	~ 2022.2	釜山大学校	韓国	九州大学	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	8		8	
	2022.2	~ 2022.2	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	5		5	
2022	2022.4	~ 2022.8	上海交通大学	中国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5		
	2022.4	~ 2022.8	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
	2022.4	~ 2023.2	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.4	~ 2022.8	上海交通大学	中国	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2022.4	~ 2022.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
2023	2023.4	~ 2023.8	上海交通大学	中国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5		
	2023.4	~ 2023.8	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
	2023.4	~ 2023.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.4	~ 2024.2	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.4	~ 2023.8	上海交通大学	中国	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.4	~ 2023.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2023.11	~ 2023.11	上海交通大学	中国	九州大学	CSS EEST & IMAT	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	30	30		
	2023.11	~ 2023.11	釜山大学校	韓国	九州大学	CSS EEST & IMAT	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	30	30		
	2023.11	~ 2023.11	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	CSS EEST & IMAT	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	15	15		
2024	2024.4	~ 2025.2	上海交通大学、釜山大学校、マレーシア工科大学	中国、韓国、マレーシア	九州大学	COIL型教育を取り入れたハイブリッド型の交流(大学院生)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
	2024.4	~ 2024.8	上海交通大学	中国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5		
	2024.4	~ 2024.8	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
	2024.4	~ 2024.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.4	~ 2025.2	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.4	~ 2024.8	上海交通大学	中国	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.4	~ 2024.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2024.8	~ 2024.8	上海交通大学	中国	九州大学	サマースクール	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	23	23		
	2024.8	~ 2024.8	釜山大学校	韓国	九州大学	サマースクール	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	23	23		
2024.8	~ 2024.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	サマースクール	①：単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流	11	11			
2025	2025.4	~ 2026.2	上海交通大学、釜山大学校、マレーシア工科大学	中国、韓国、マレーシア	九州大学	COIL型教育を取り入れたハイブリッド型の交流(大学院生)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5			5
	2025.4	~ 2025.8	上海交通大学	中国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	5	5		
	2025.4	~ 2025.8	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	4	4		
	2025.4	~ 2025.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	DD取得交換留学(修士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.4	~ 2026.2	釜山大学校	韓国	九州大学	DD取得交換留学(博士)	③：単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.4	~ 2025.8	上海交通大学	中国	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2025.4	~ 2025.8	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	交換留学(博士)	⑥：上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流	1	1		
	2026.2	~ 2026.2	上海交通大学	中国	九州大学	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	18		18	
	2026.2	~ 2026.2	釜山大学校	韓国	九州大学	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	18		18	
	2026.2	~ 2026.2	マレーシア工科大学	マレーシア	九州大学	スプリングセミナー	④：上記以外の 交流期間30日未満の交流	6		6	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

(v) 宿舎の提供について

宿舎（大学所有の宿舎、大学借り上げによる宿舎等）を提供予定の学生数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	8	12	12	13	13	13	13	13	13	61	59

(vi) 同窓会ネットワークへの参加者数について ※タイプA①・A②のみ

第2モードまでの間に準備を進めてきた同窓会ネットワークへの参加者数について	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
	10	12	13	13	13	61

【参加者を増加させるための取組】

同窓会ネットワークの参加情報をプログラム全体学生に提供し、以下のように毎年3回の同窓会交流会を開催する。同窓会ネットワークへの参加者数は、単位取得を伴う交流期間3ヶ月以上の交流に参加する学生の人数に準じて想定している。

1. 春期同窓会交流会：渡航前の不安解消
実渡航の前に、留学先の学内外での生活の立ち上げや学業・生活面の情報共有などについて先輩学生から教えてもらう。
2. 冬期同窓会交流会：就職活動の経験交流
DDプログラムに参加した学生としての独自の就職活動経験を先輩学生から学ぶ。
3. 卒業学期の同窓会交流会：DD取得についての経験交流
DD卒業論文の書き方、卒論発表の経験、論文提出からDD取得まで手続き上の注意事項などについて先輩学生から教えてもらう。

(vii) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

※第2モードまでの実績と比較して発展的な内容にするために必要な任意指標を適宜設定してください

【現状分析及び目標設定】

(設定指標)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	合計
(指標1)						0
(指標2)						0
(指標3)						0
(指標4)						0
(指標5)						0

【計画内容】

(大学名： 九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

⑧ 海外相手大学との単位互換について

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	13	13

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：九州大学】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
上海交通大学	認定者数	1	5	5	5	5	21
	認定単位数	10	50	50	50	50	210
釜山大学校	認定者数	6	5	5	5	5	26
	認定単位数	60	50	50	50	50	260
マレーシア工科大学	認定者数			1	1	1	3
	認定単位数			10	10	10	30
年度別認定者数合計		7	10	11	11	11	50
年度別認定単位数合計		70	100	110	110	110	500

2. 国内連携大学 【大学名：】

相手大学名		2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	合計
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
	認定者数						0
	認定単位数						0
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0	0

(大学名：九州大学①) (タイプ A①：CAプラス)

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備 【①～③合わせて2ページ以内】

① 日本人学生の派遣のための環境整備

【実績・準備状況】

九州大学では、学生の国際交流を推進するための情報ウェブサイト「Global Gateways Kyushu University」を通じて、留学制度や留学先大学に関する様々な情報の提供を行っているほか、「九州大学留学ガイド」というウェブサイトによる情報発信している。

(<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/ryugakuguide/>) また、教職員向けにも新任者FD研修会などで説明するとともに「海外渡航危機管理ハンドブック」を作成して全学に配布している。

これら全学的な取り組みに加え、総合理工学府にはキャンパス・アジア第1期、第2期を通じた10年間の経験があり、学生の派遣/受入に必要な支援体制は完備されている。留学準備、安全教育、オリエンテーション、派遣先大学の履修条件や派遣国の生活状況に関する情報提供、派遣中の相談サービス等、派遣前から派遣後に至る様々な支援を実施している。DDに関連した教育ポリシー（各大学における修業年限の考え方、修了要件単位数、互換可能単位数、講義時間数、修士論文・集中講義にかかる規定、インターシップ科目に関する情報等）については、ホームページ上でも日本人学生に対する情報提供を行っている。就職等に関しては、学生からの相談窓口を設け随時対応している。

また、上海交通大学（SJTU）への派遣の場合は中国人教員が、釜山国立大学校（PNU）への派遣の場合は韓国人教員が中心となり、万全の対応をする体制を整えている。このような環境整備が既になされており、学生の派遣に関してこれまでに大きなトラブルは発生していない。受入先となるPNUでは、九大と同じようにキャンパス・アジア専任スタッフが学生支援に当たっている。SJTUでは国際部が学生支援と統括し、担当専攻である機械工学及び環境工学の事務職員が学生支援を担当している。日本人学生が留学先で必要な支援が十分得られていることは、学生へのアンケートからも読み取れる。

【計画内容】

マレーシア工科大学（UTM）を加えた4大学のキャンパス・アジアプラスプログラムにおいても、これまでと同様の支援体制と学習環境を構築する。UTMへの派遣の場合には、UTMとの研究交流を既に実施しているASEAN出身の教員が中心となって対応するように準備をしている。また、日中韓3大学の事務担当者同士の連絡は緊密に取られており、今後、UTMを加えた4大学の連絡体制も同様に整える。

一方、補助事業終了後にプログラムを恒常的に運用するための支援体制も確立する必要がある。本事業の支援を学内の事務組織の一部として実施するために、事業期間の5年間で徐々に体制の移行を進める。九州大学には、学生の留学を支援する全学組織として「グローバル学生交流センター」があるため、補助事業終了後の学生支援体制構築に向けて連携を図る。

また、補助事業終了後の学生の派遣に関しては、奨学金の支給がなくても学生がプログラムへの参加を希望するような魅力的なプログラムの開発が重要である。プログラムの内容について、修了生へのアンケートや外部評価を実施し、常に改善を図る。同時に、産業界からの寄付金による資金の確保を目指す。特に、本プログラムは九州の財界等からも注目されているので、エネルギー環境理工学グローバル人材の登用を進めている企業との連携を図るなど、本プログラムと産業界との間にWin-Winの関係を築くことを目指す。

② 外国人学生の受入のための環境整備

【実績・準備状況】

九州大学では外国人留学生に対して、入国手続き、外国人登録、宿舍提供、銀行口座設置、サポーター配備、インターネット環境提供、生活支援、履修指導、安全教育、学生保険加入等の支援を大学本部の国際部や総合理工学府の留学生係が行なっている。また、生活環境支援策のひとつとして、「Campus Life Handbook」を英語で作成し、日本で生活するうえで留意する点について全学的に外国人留学生に配布している。これらに加えて、キャンパス・アジアプログラムに関する学生派遣・受入に関しては、専任教員と事務職員を配置したキャンパス・アジアオフィスが一元的に対応している。加えて、今年度、総合理工学府内に新たに設置した「国際推進室」と連携し、本プログラムの支援を充実させる。

学生の学籍及び出席状況も常に把握している。DD生は正規学生であり、通常の学生と同じ体制で履修するよう指導している。大学院の留学生は全て留学先における指導教員が決まっており、授業時間以外は基本的に指導教員の研究室で起居しており、その研究室に所属する他の教員及び学生の支援も受けている。各研究室では、留学生の来日直後の生活の立ち上げや、その後の生活環境や文化の違いに起因する悩みに

ついて相談を受けるなど、来日後のアフターケアを行なっている。

また総合理工学府では、本プログラム生を含む正規課程の留学生には、来日オリエンテーションを実施するほか、英語で実施する「安全教育」の受講を義務付けている。これにより、教育研究活動中の事故の防止に努めている。

一方、留学生が大学内だけでなく社会との関わりを広く持てるように、産業界との連携活動として、サマースクールに民間企業からの外部講師を招聘することや、企業を訪問し、工場見学や留学生との懇談会を開催するなど、交流を深めるための取り組みを実施している。学生支援に関するアンケートによれば、本プログラムの留学生は得られた支援に全員満足している。加えて、筑紫キャンパス内の留学生会 (KIISA) 主催での歓迎会、各国の文化紹介、日帰り旅行、地域交流 (春日高校、春日中学校、大野城市) などの様々な交流会に参加することにより外国人同士は勿論、日本人との国際交流がなされている。

【計画内容】

補助事業終了後もこれまで同様の支援と学習環境を維持するための体制を確立する。本事業期間内はキャンパス・アジアオフィスを維持してプログラム運営を遂行するが、総合理工学府の「国際推進室」との連携も開始し、恒常化運営が可能なシステムの構築を進める。

プログラムの恒常化にあたり、最も大きな課題は学生への金銭的支援である。第1期及び第2期のプログラムにおける学生支援は手厚く、各大学ともに受入れた DD 生約 10 名に対して、留学生生活をカバーするに十分な奨学金を支払っているだけでなく、宿舍も提供している。財政の面からは、補助事業終了後も同様な支援を維持することは難しい。恒常的なプログラムとしては、奨学金なしでも学生が応募してくるようになるのが理想的であり、そのような魅力あるプログラムになるようにプログラムの改善に努める。特に、学生の満足度や改善の要望をアンケート等で把握する。同時に、学内の留学生支援制度や民間からの寄付金等によって最低限の運営資金確保の道筋をつける。

③ 関係大学間の連絡体制の整備

【実績・準備状況】

キャンパス・アジアオフィスが学生の派遣・受入の支援や学生への情報提供・相談などの業務を行なっている。また、派遣先である釜山国立大学では本学と同様にキャンパスアジア専任スタッフが学生支援に当たっている。上海交通大学では国際部の統括の下、担当専攻である機械工学及び環境工学の事務職員が学生支援を担当している。プログラムの運営については、各大学内の PDCA 委員会及び国際 PDCA 委員会を組織し、それら委員会で履修プログラムの作成、運営、学生への必要な支援等を議論し、実行に移すシステムが構築できている。各大学の PDCA 委員会あるいは実際の担当者間の連携は緊密に取られており、大きな齟齬が生じるなどの問題はこれまでに起きたことがない。大学内の PDCA 委員会は四半期に 1 回程度、国際 PDCA 委員会は年間 2~3 回開催しており、これ以外にも E メール等によって常に緊密に連絡がとれる体制が整っている。

特に 2020 年のコロナ禍においても、オンライン会議等による緊密な連携のもとで、本プログラムの継続に問題は起きていない。3 大学の合意による留学時期の延期やオンライン講義による単位取得など、柔軟な対応ができていた。2020 年のサマースクールは上海交通大学の主催の下、オンラインで開催した。2021 年のサマースクールは九州大学が主催であるが、オンラインによる PDCA 会議やメール審議によって万全の準備や連絡体制を維持している。

なお、留学生は保険に加入させており、医療費は保険ですべてカバーされている。また、DD 修了生には、修了後の連絡先を知らせるようにさせており、現在までの修了生のその後の活動は把握できている。

【計画内容】

構築されたキャンパス・アジア連絡体制に UTM を加え、キャンパス・アジアプラス事業を円滑に運営するための連絡体制を整える。特に、補助事業終了後の恒久的な運営体制を見据え、徐々に体制の移行を進める。修了生は同窓生として登録し、修了後も必要なサポートを提供する。すでに 171 名の DD 生を輩出しているので、3 大学が協働して参加学生の同窓会を立ち上げてフォローアップを行う。また、構築してきたプログラム、交流の実績等についてのドキュメンテーションを行う。

事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及 【①～②合わせて2ページ以内】

① 事業の実施に伴う大学の国際化

【実績・準備状況】

修士課程のダブルディグリー(DD)プログラムでは、コンソーシアムを形成する3大学間で質保証を伴ったDD生を輩出しており、コンソーシアム内での国際化は進んでいる。九州大学ではキャンパスの国際化も進んでいるが、このDDプログラムは日中韓の3カ国に縛られているので、サマースクールや国際セミナーを中韓の他大学、あるいは他国学生にもオープン化することによって、より広範な国際化を目指す。その一環として、九州大学と台湾科技大学との修士DDプログラムを既に開始している。新型コロナウイルス蔓延の影響で派遣・受入は延期となったが、2020年には台湾科技大学から10名の学生を受入れ、九州大学から4名の学生を派遣する予定であった。

【計画内容】

マレーシア工科大学を加えた4大学によるプログラムの継続・発展に伴って、大学の国際化をさらに進める計画である。特に、修士ダブルディグリーの取得要件として、学生が所属する専攻のカリキュラムに加えて、エネルギー・環境問題に特化したカリキュラムの学習を必修としている。エネルギー・環境問題は、アジア地域における喫緊の課題であり、先導的なエネルギー環境理工学教育プログラムの開発によってアジアを牽引する。

② 国内外への情報提供の方法・体制、成果の普及

【実績・準備状況】

本プログラム専用のホームページ(HP)(<http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/campus-asia/>)を和文及び英文で開設し、プログラムの概要、活動記録、学生の募集等の最新情報を掲載している。このHPは、九州大学 Global Gateways のHP(<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/>)、及び、九州大学総合理工学府のHP(<http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/>)からリンクがはられている。さらに、キャンパスアジア専用フェイスブック(<http://www.facebook.com/kucampus.asia>)を開設して広報をはかると共に、留学生たちとの意見交換や、留学生からの要望受付に利用している。

プログラムの広報のためパンフレットも作成し、大学公開講座等で配布、及び、関係各所へ送付した。HPで電子パンフレットとしても配布している。

また、毎年度末に報告書を作成し、外部の関連団体、内部の関係部署に送付している。報告書はHPを通して外部からも入手可能にしてある。英文、和文の両方で作成した News Letter も毎年発行し(既刊 No.1～No.10)、広く内外に送付している。

【計画内容】

これまで以上に情報提供、発信に努める。

- 年次報告書、毎年 News Letter の発行(日本語版、英語版)を継続して行う。
- 英文の News Letter も刊行してきたところであるが、これを継続、発行頻度を増加させる。海外への情報発信の重要性が増しているところから、今後はさらに英文での情報発信を増やし、特に ASEAN 地域への広報を強化する。
- 既存の英文のホームページの充実、英文フェイスブックの開設、サマースクールや国際セミナーの英文での案内等の充実をはかる。
- 学協会、例えば日本工学教育協会などの外部発表は継続して行う。機会があれば、日本に限らず、海外での発表も行う。
- 九州地区を中心に産業界との連携をはかる。例えば、産学界リーダーによる「福岡-釜山フォーラム」との連携や、上海及びマレーシアを含む産学官ネットワーク形成を模索する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名 (国名) 上海交通大学 (中華人民共和国)

① 交流実績 (交流の背景)

上海交通大学とは、平成 14 (2002) 年に全学協定を締結し、交換留学を実施してきている。

2011 年に開始した「キャンパス・アジア」プログラム第 1 期、第 2 期を通じた過去 10 年間の上海交通大学との学生及び教職員の交流実績(延べ人数)を右表に示す。

ダブルディグリーを目指す学生(DD 生)の留学は 2013 年より開始されており、それ以降毎年 3~8 名の DD 生が交換留学している。また、博士研究インターンシップの受入は 6 名、派遣は 1 名である。サマースクールや国際セミナーは輪番で担当しており、派遣/受入が年度によって異なる。サマースクールやセミナーには各大学の教員が講師として講義を行っており、相当数の教員が交流している。またプログラムを運営する上で、事務的な仕事も必要であるため、事務職員の交流も活発に行われてきた。

上海交通大学(中華人民共和国)							
派遣	2011-2015	2016	2017	2018	2019	2020	計
DD生(半期)	19	4	6	4	8	1	42
サマースクール(2日間)	44		27			28	99
国際交流セミナー(3日)	49	49			40		138
春期セミナー(3-4日)		12			7		19
博士短期派遣		1					1
教員	41	22	12		26	15	116
事務職員	9	4	2		4	4	23
受入	2011-2015	2016	2017	2018	2019	2020	計
DD生(半期)	22	8	8	6	9	3	56
サマースクール(2週間)	57			33			90
国際交流セミナー(3日)	44		30			8	82
春期セミナー(3-4日)	28	13					41
博士短期受入	2	2	2				6
教員	23	9	8	15		11	66
事務職員	22	3	4	4		9	42

② 交流に向けた準備状況

交流プログラムの実施体制は「キャンパス・アジア」プログラム第 1 期におけるパイロットプログラム構築の過程で完成しており、大学ごとに役割・実施体制も学生交流協定、及び DD を目指した学生交流協定に明記し実行してきた。各大学内に PDCA 委員会を設け、そこで学生交流を一元的に管理し、それを統括する形で各国の PDCA 委員会のリーダーを含む若干名からなる国際 PDCA 委員会を設け、プログラムの運営実行を決定する組織をおき、交流実施体制を確立している。2015 年まで、上海交通大学「機械与動力工程学院」と「環境科学与工程学院」と DD を目指した学生を 41 名相互派遣・受入してきた。2016 年から交流協定を延長し、「キャンパス・アジア」プログラム第 2 期を上海交通大学「材料科学与工程学院」と「中英国際低炭学院」へ拡大した。新型コロナウイルスの影響で 2020 年度の派遣・受入学生数が劇的に減少したのも関わらず、2020 年度まで DD を目指した学生の参加人数は 98 名に達し、その内に 83 名の学生はすでに DD を取得した。

実際の学生の交流は、半期の留学、サマースクール、国際研究セミナー、スプリングセミナーであり、留学以外は輪番で担当校となり、担当校となった場合は学生を受入、それ以外では派遣を行う事になる。講師派遣や受入学生の指導なども担当校、非担当校それぞれの役割も定められている。担当校となる順序は規定のものを継続する。

サマースクールについては相手先大学いずれも、外部学生を受け入れて単位を認定する独自のサマースクールを開催した実績があるので、オープン化の準備は整っている。DD 取得を目指して留学する学生は、相手先大学に入学しなければならない。DD 協定によりそのための手続き方法はすでに確立している。博士学生の短期派遣/受入もすでに実績があり、これからも継続していく。両大学の教職員もプログラムに積極的に参加し、交流実施体制を深く理解している。

今回は、この 10 年間の経験を踏まえ、交流協定をもう一度延長し、当面この実施体制を継続する。さらに、2021 年度からマレーシア工科大学をプログラムに参加させことについて上海交通大学と合意形成し、「キャンパス・アジア」プログラム第 3 期の更なる発展を計画している。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】

相手大学名
(国名)

釜山大学校 (韓国)

① 交流実績 (交流の背景)

釜山大学校とは、平成 6 (1994) 年に全学協定を締結し、複数の部局で交換留学を実施している。

キャンパスアジアプログラムによる過去 10 年間の釜山大学校との学生及び教職員の交流実績を右表に示す。ダブルディグリーを目指す学生 (DD 生) の交換が 2013 年より開始されており、それ以降毎年 2~6 名の DD 生が交換留学している。また、博士研究インターンシップの受入は 4 名、派遣は 1 名である。サマースクールや国際セミナーは輪番で担当しており、派遣/受入が年度によって異なる。サマースクールやセミナーには各大学の教員が講師として講義を行っているため、相当数の教員が交流している。またプログラムを運営する上で事務的な仕事も必要であるため、事務職員の交流も活発に行われてきた。

釜山大学校 (大韓民国)							
派遣	2011-2015	2016	2017	2018	2019	2020	計
DD 生 (半期)	16	3	3	2	6	2	32
サマースクール (2日間)	21	29			22		72
国際交流セミナー (3日)	42			37			79
春期セミナー (3-4日)			11				11
博士短期派遣			1				1
教員	25	11	6	14	10		66
事務職員	13	2	2	4	3		24
受入	2011-2015	2016	2017	2018	2019	2020	計
DD 生 (半期)	16	2	3	3	2	3	29
サマースクール (2週間)	58			40			98
国際交流セミナー (3日)	88		77			17	182
春期セミナー (3-4日)	35	16					51
博士短期受入	1	3					4
教員	55	15	18	20		23	131
事務職員	10	4	2	2		2	20

② 交流に向けた準備状況

交流プログラムの実施体制は、10 年前の第 1 期からのパイロットプログラム構築の過程で完成しており、大学ごとに役割・実施体制も学生交流協定、及びダブルディグリーを目指した学生交流協定に明記し実行してきた。各大学内に PDCA 委員会を設け、そこで学生及び教職員の交流を一元的に管理し、それを統括する形で各国の PDCA 委員会のリーダーを含む若干名からなる国際 PDCA 委員会を設け、プログラムの運営実行を決定する組織をおき、交流実施体制を確立している。今回は、協定を延長し、当面この実施体制を継続する。今まで問題なく順調に運営している。

実際の学生の交流は、半期の留学、サマースクール、国際研究セミナー、スプリングセミナーであり留学以外は輪番で担当校となり、担当校となった場合は学生を受入、それ以外では派遣を行う事になる。講師派遣や受入学生の指導なども担当校、非担当校それぞれの役割も定められている。担当校となる順序は規定のものを継続する。

DD 取得を目指して留学する学生は、相手先大学に入学しなければならない。DD 協定によりそのための手続き方法はすでに確立している。サマースクールへの 3 大学以外の学生の参加についても既に実績がある。特に、2019 年のサマースクールの際、博士 DD の調印が行われ、正式的に博士 DD が実施できるようになった。ただし、今までのところ学生入学実績はない。今後、博士課程の DD の定着化を目指していく。また、博士インターンシップ短期および長期の派遣/受入れの推進も継続する。

交流プログラムを実施する海外相手大学について 【相手大学ごとに①、②合わせて1ページ以内】	
相手大学名 (国名)	マレーシア工科大学(UTM)、(マレーシア)
① 交流実績 (交流の背景)	
<p>マレーシア工科大学(UTM)と九大間の交流は2011年から始まり、学生・教員の交流、共同セミナーなど行われてきた。特に、2019年に環境エネルギー工学専攻が共催で開催した国際シンポジウムである The 11th International Meeting on Advances in Thermo Fluids (IMAT2019)で、UTMの教員7名、学生7名が本学の総理工に來学し、セミナーでも研究発表、学生交流、歓迎会での親睦など有益な交流であった。</p> <p>また、マレーシアのMJIIT(Malaysia-Japan International Institute of Technology: マレーシア日本国際工科院)は本学で実施しているGreen Asia program 海外提携校の1つであり、下記のような交流実績が挙げられる。</p> <p>1) さくらサイエンスプログラム: 2017/2/19-3/11 教員1, 学生1 受け入れ 2018/10/15-10/25 学生1 受け入れ 2020/1/11~1/17 教員2, 学生1 受け入れ</p> <p>2) JICA 調査団 「マレーシア国MJIIT電子顕微鏡ラボラトリーの運営管理機能向上を目的とした運営指導調査」 九州大学超顕微解析研究センター(Ultramicroscopy Research Center: URC)とML(電子顕微鏡ラボラトリー(Microscopy Laboratory; ML; 顕微解析室)-MJIITとの連携に関する調査・打ち合わせのために総理工から2名の教員が2019年3月に現地に派遣されている。その後、九大の担当教員がML-MJIITの研究指導のためのJICAのグラントを取得した。</p> <p>3) 共同研究 九大の教員とMJIIT教員と間で過去5年間、共同研究実施として、共著論文の場合、2021年5報、2020年3報、2019年5報、2018年2報の業績がある。</p> <p>4) グラント獲得 九大の教員とMJIIT教員と間に4件の実績がある。</p>	
② 交流に向けた準備状況	
<p>2021年2月に日中韓三大学のPDCA会議を開催し、キャンパス・アジアプラスプログラムへの応募およびASEANからの参加大学について十分に議論し、新規参加大学としてUTMを選択することに合意した。その後、キャンパス・アジアプラスプログラムへの参加についてUTMと九州大学の間でメールによる打ち合わせを重ねた。そして両大学の関係者によるオンライン会議を4月に開催し、本プログラムの趣旨やこれまでの取り組み内容を説明し、UTMが参加に合意した。UTMを加えた4大学でキャンパス・アジアプログラムに応募することについては、4大学間でLOI(Letter of Intent, 基本合意書)を締結済みである。</p> <p>今後、UTMを加えた4大学によるプログラム実施方法や運営体制、学生支援体制の構築について議論し、キャンパス・アジアプラスでも実施予定であるサマースクール、国際研究セミナー、スプリングセミナーにおける担当等の詳細を決定する。</p> <p>また、現在交渉しているUTMの部局は工学部の機械工学分野であるが、将来的にMJIITや他の部局にも参加も積極的に検討し、対応する。</p>	

事業計画の実現性、事業の発展性 【①は1ページ以内、②、③、④は合わせて3ページ以内】

① 年度別実施計画
【2021年度（申請時の準備状況も記載）】

九州大学 (KU), 釜山国立大学校 (PNU), 上海交通大学 (SJTU) は実施中のキャンパス・アジアプログラムをキャンパス・アジアプラスとして発展させることに合意済みであり, また, マレーシア工科大学 (UTM) はキャンパス・アジアプラスへの参画に合意している. 4月には KU と UTM との間でオンライン会議を行い, 本プログラム参加のための LOI の準備を開始した. また, UTM の参画について PNU, SJTU の内諾を得た後に, UTM を含む 4 大学の国際 PDCA 委員会を 7 月に開催し, UTM を加えた 4 大学コンソーシアムの構築を正式に承認した.

第 2 期まで実施した枠組みで 2021 年度の新入生も既にプログラムに受け入れており, 4 月に PNU を母大学とする学生 4 名が KU に入学し, 現在はオンラインで講義を受けている. 9 月には SJTU から 2 名の学生が来日予定であり, KU からは SJTU に 1 名, PNU に 5 名が留学を予定している. サマースクールは在籍中の修士 2 年の DD 生のためにも開催が必須なため, 本事業の開始前であるが 8 月に開催を予定している. KU が幹事校であり, オンラインで開催する計画で準備を開始した. また, プログラムが採択されれば若干名の DD 生を追加募集する予定である. そして, 現状のダブルディグリー協定を 5 年間延長するための手続きを開始し, 年度中に延長協定を締結する. 11 月には国際研究セミナー (CSS-EEST) を PNU で開催し, 本プログラムに参加する修士学生 10 名程度と博士学生 20 名程度の参加を予定している. 12 月から 1 月にかけては, 在籍中の M2 の DD 生の修士論文の審査を行う. 2 月~3 月の間にスプリングセミナーをオンラインで開催する.

【2022年度】

実施中のプログラムを継続すると同時に, 4 大学による DD プログラム開始に向けて課題の抽出や運営体制の構築を進める. また, 外部評価の結果等を集積して修士 DD プログラムの高度化と博士 DD への発展に向けてプログラムの改良に努める. UTM との DD に関する MOU 締結のための諸準備や議論を進め, 2022 年度中の MOU 締結を目指す.

博士課程の留学経験者増加に向けて, DD 留学または研究インターンシップの派遣/受入を促進し, 実績を蓄積する. その上で博士課程の DD プログラムの発展と方向性に関する議論を開始する. また, COIL 型教育を試行し, 効果的なカリキュラム形態を検討する.

【2023年度】

マレーシア工科大学を含めた 4 大学の修士 DD プログラムを開始する. 従来のプログラムを実施しつつ, 改良/高度化に向けた取り組みを試行する.

博士課程の留学生増加に向けて, 研究インターンシップや修士 DD からの進学を促進する. そして, 博士 DD の改善及び新規開始に向けた取り組みを進める. COIL 型教育の実施に向けて 4 大学で教材を開発する. サマースクール, 国際研究セミナーのオープン化とオープン参加学生への有料化方法を具体化する.

【2024年度】

サマースクール, 国際セミナーのオープン化と有料化の是非や効果を検討し, 事業終了後の留学を含めたプログラム有料化に向けた制度構築を開始する. 博士課程の研究インターンシップ等を継続するとともに, 博士 DD の改善・新規開始に向けた方策を具体的に検討する. COIL 型教育を取り入れたカリキュラムを開始する. また, プログラム自走化に向けて, 運営業務, 質保証, 財政確保について検討を進める.

【2025年度】

2026 年度以降も正規プログラムとして DD プログラムを実施するための協定書を締結し, 異文化理解など新規カリキュラムの開発などを反映して改良・高度化した DD プログラムをスタートさせる. 博士課程の DD プログラム定着のため, 博士課程での DD 取得に向けて相互留学 (入学) の実施を加速化する. 4 大学で事業総括を行い, 事業終了後のプログラムの継続的実施体制を確立し, 必要な取り決めを行う. また, プログラム継続のため, 総合理工学府内で運営を引き継げるようにし, そのための体制を整えると共に予算の確保 (寄付金による九大での基金の拡充など) を定着させる.

② 交流プログラムの質の向上のための評価体制

各大学の PDCA 委員会がそれぞれに自己点検による内部評価を行う。シラバスや試験内容の精査、教員及び学生へのヒアリング等を通して、目的に沿った教育が行われているか確認し、問題があれば改善する。また、各受入研究室の指導教員による学生の学習態度、習熟度に対する評価や留学期間中に学生の自己評価等を実施し、プログラムの質向上に努める。加えて、客観的な評価のために、外部の専門家（3～5人）による外部評価を実施する。外部専門家による評価は、キャンパスアジア第1期、第2期を通してほぼ毎年実施しているものである。

本事業期間に UTM に新たに設置する学内 PDCA 委員会においても、同様な評価と改善が実施できるように体制を構築する。そして、マレーシアを含む4大学で同等なプログラムの質保証がされる評価体制を整える。

③ 補助期間終了後の事業展開

補助期間終了後も修士課程の DD プログラムを正規プログラムとして継続するために、新たな DD 協定を締結し、それに基づき、正規課程としての DD プログラムを遂行する。DD 取得修了生に対しては、彼らの終了後の進路についてモニタリングやアンケートを行うなどして、DD プログラムのアウトカムを調査し、プログラムへのフィードバックを図る。

DD プログラムおよびその他の国際交流を正規プログラムの一環として継続するには、大学からの恒常的なサポートと、外部資金の導入が不可欠である。2021年4月から各部局に「国際推進室」が新たに設置され、本プログラムに関わりのある教員に加え、多数の教員と1名の事務員が配置され、本プログラムの担当及びサポートを行う体制が構築された。したがって、補助期間終了後は国際推進室を中心にプログラムを運営する。

また、プログラムを安定的に運営するための財源を確保する。その一つとして、九州大学大学院総合理工学府では、学生の教育支援を目的とした基金を令和3年3月に設立した。海外他大学を母大学とするダブルディグリー生も同基金による支援対象となるため、十分な支援金を集めるために産業界や本学 OB からの協力を得られるように、プログラムの成果等に関する情報発信を強化する。加えて、サマースクールや国際セミナーを魅力の高いものとし、外部から参加者を増やし、参加費を徴収できるようにして、財政負担の軽減をはかる。

現状では DD プログラムに参加した学生は、奨学金の支給を受けているが、将来的には奨学金なしでもこのプログラムに参加する学生が増えるように、プログラムをより魅力的にすると共に、国際化社会に通用するグローバル人材を数多く輩出することによって社会的に高い評価が得られるように努める。そのためにも修了生のフォローアップは重要であり、修了生の同窓会ネットワークを構築し、そのつながりを継続させる。さらに、博士課程の DD 生は、プログラム修了後は国内外の大学・研究機関でエネルギー環境理工学分野をリードする研究者として活躍することが期待される。そのような人材には、修了後も本プログラムへの協力を求め、組織レベルでの連携など新たな展開に発展させ、プログラムの維持だけでなく、常に改善と高度化を目指す。

④ 補助期間終了後の事業展開に向けた資金計画

補助期間終了後のプログラム継続のために、以下の措置が必要と考えられる。

- (1) プログラム担当教員及び語学担当教員として、九州大学の承継教員を割り当てる。教員は本プログラムの選任ではないため、兼任(1/3)で3名とする。実践英語教育費用は計上していないので、語学教育への配慮も必要である。
- (2) 学生支援のためには、現在のキャンパスアジアオフィスの役割を担う少なくとも2名の事務職員の雇用が続けて必要となる。
- (3) サマースクールと国際研究セミナーの実施費用(輪番制で3~4年に1回担当校を引き受けるため)
- (4) 学生支援(奨学金、宿舎費等)

これらに必要な経費は概算で下表の通りとなる。

本プログラムの運営主体を学府内の組織とすることにより、その運営経費は大幅に削減できる。特に、大学の国際化を加速させるため、総合理工学府では2017年4月にIFC(Internationalization and Future Conception)部門を新設し、4人の外国人教員を配置し、本プログラムの定着化・恒常化に備えている。また、総合理工学府には留学生を主な対象とした国際担当教員を配備している。ただし、教育の質を落とさずにプログラムを継続するためには、学内資金だけでは不十分である。そのため、基金の拡充、学外資金の獲得、サマースクール等の有料化で対応する。

事業	詳細	必要経費 (単位千円)	資金計画 (単位千円)				
			人事 給与	学内 措置	基金	外部資金 (有料化・ 自己負担)	外部資金 (委任経理金・ その他)
人件費	専任教員 (教員を兼ねる)3名 X1/3	10,000	10,000				
	事務職員(兼任) 2名/年	6,000		6,000			
DD生支援	奨学金・宿舎 20名/半年, @125	2,500		500			2,000 (JASSO 派遣支援)
サマースクール (2週間約100名)	派遣・受入	2,000				1,000	1,000 (JASSO 派遣支援)
	主催経費 1/3回/年	4,500X2/3 = 3,000		500	1,000	1,500	
国際研究セミナー (2-3日約60名)	派遣・受入 2/3回/年	2,000		500			1,500 (JASSO 派遣支援)
	主催経費1/3回/年	3,000X1/3		500	500		
春期セミナー	受入/派遣10名/年	1,000		500		500	
その他	事務経費等	3,000		2,500	500		
合計		30,500	10,000	11,000	2,000	3,000	4,500

補助期間における各経費の明細【年度ごとに1ページ】

補助金申請ができる経費は、当該事業の遂行に必要な経費であり、本プログラムの目的である大学の世界展開力強化のための用途に限定されます。（令和3年度大学の世界展開力強化事業公募要領参照。）

(単位：千円)

経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
<2021年度>				
[物品費]	5,200		5,200	
①設備備品費	4,000		4,000	
・AV及びPC関連設備、オンライン教育環境整備	4,000		4,000	
・				
②消耗品費	1,200		1,200	
・PC関連消耗品、ソフトウェア、文具等	1,200		1,200	
・				
[人件費・謝金]	3,500		3,500	
①人件費	3,000		3,000	
・プロジェクト支援員 2名	3,000		3,000	
・				
②謝金	500		500	
・実践英語教育非常勤講師	500		500	
・				
[旅費]	4,540	1,600	6,140	
・海外旅費	400		400	
・国際セミナー（IMAT）教職員旅費	500		500	
・国際セミナー（CSS EEST）教職員旅費	1,000		1,000	
・派遣学生渡航費（SJTU&PNU、80千円×9名）	720		720	
・派遣学生渡航費（UTM、120千円×1名）	120		120	
・国際セミナー（CSS EEST）派遣費用 80千円×30名 to PNU	800	1,600	2,400	
・国際セミナー（IMAT）派遣費用 100千円×10名 to UTM	1,000		1,000	
[その他]	2,560	3,470	6,030	
①外注費	220		220	
・複合機（プリンター）レンタル	220		220	
・				
②印刷製本費	800	200	1,000	
・事業報告書、News Letter 等	800	200	1,000	
・				
③会議費				
・				
・				
④通信運搬費	10	70	80	
・郵便物運搬料	10	70	80	
・				
⑤光熱水料		200	200	
・		200	200	
・				
⑥その他（諸経費）	1,530	3,000	4,530	
・修士DD生受入用宿舎（1500円×140泊×6人）	1,260		1,260	
・博士非DD生受入用宿舎（1500円×90泊×2人）	270		270	
・修士DD生派遣奨学金（SJTU、60千円×5か月×1人）		300	300	
・修士DD生派遣奨学金（PNU、70千円×5か月×6人）		2,100	2,100	
・博士非DD生派遣奨学金（SJTU、60千円×3か月×1人）		180	180	
・博士非DD生派遣奨学金（PNU&UTM、70千円×3か月×2人）		420	420	
2021年度	合計	15,800	5,070	20,870

(大学名：九州大学①)

(タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2022年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		2,200	2,200	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費		2,200	2,200	
	・PC関連消耗品、ソフトウェア、文具など		2,200	2,200	
	・				
	[人件費・謝金]	6,500		6,500	
	①人件費	6,000		6,000	
	・プロジェクト支援員 2名	6,000		6,000	
	・				
	②謝金	500		500	
	・実践英語教育非常勤講師	500		500	
	・				
	[旅費]	5,140	3,120	8,260	
	・国内旅費	300		300	
	・海外旅費	400		400	
	・サマースクール教職員旅費	1,000		1,000	
	・国際セミナー (CSS EEST) 教職員旅費	1,000		1,000	
	・派遣学生渡航費 (SJTU&PNU、80千円×11名)	720	160	880	
	・派遣学生渡航費 (UTM、120千円×1名)	120		120	
	・国際セミナー (CSS EEST) 派遣費用 80千円×30名 to SJTU	800	1,600	2,400	
	・サマースクール派遣費用 80千円×27名 to PNU	800	1,360	2,160	
	・				
	[その他]	2,580	6,045	8,625	
	①外注費		220	220	
	・複合機 (プリンター) レンタル		220	220	
	・				
	②印刷製本費	650	350	1,000	
	・事業報告書、News Letter 等	650	350	1,000	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費	40	40	80	
	・郵便物運搬料	40	40	80	
	・				
	⑤光熱水料		200	200	
	・		200	200	
	・				
	⑥その他 (諸経費)	1,890	5,235	7,125	
	・修士DD生、博士非DD生受入用宿舍 (1500円×140泊×11人)	1,890	420	2,310	
	・博士DD生受入用宿舍 (1500円×330泊×1人)		495	495	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金 (SJTU、60千円×5か月×6人)		1,800	1,800	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金 (PNU&UTM、70千円×5か月×5人)		1,750	1,750	
	・博士DD生派遣奨学金 (70千円×11か月×1人)		770	770	
	・				
2022年度	合計	14,220	11,365	25,585	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2023年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]	1,000		1,000	
	①設備備品費				
	・				
	②消耗品費	1,000		1,000	
	・PC関連消耗品、ソフトウェア、文具など	1,000		1,000	
	・				
	[人件費・謝金]	6,500		6,500	
	①人件費	6,000		6,000	
	・プロジェクト支援員 2名	6,000		6,000	
	・				
	②謝金	500		500	
	・実践英語教育非常勤講師	500		500	
	・				
	[旅費]	3,300	2,000	5,300	
	・国内旅費	300		300	
	・海外旅費	400		400	
	・サマースクール教職員旅費	1,000		1,000	
	・派遣学生渡航費 (SJTU&PNU、80千円×11名)	560	320	880	
	・派遣学生渡航費 (UTM、120千円×2名)	240		240	
	・サマースクール派遣費用 80千円×31名 to SJTU	800	1,680	2,480	
	・				
	[その他]	1,998	8,187	10,185	
	①外注費		220	220	
	・複合機 (プリンター) レンタル		220	220	
	・				
	②印刷製本費	260	740	1,000	
	・事業報告書、News Letter 等	260	740	1,000	
	・				
	③会議費				
	・				
	④通信運搬費	58	22	80	
	・郵便物運搬料	58	22	80	
	・				
	⑤光熱水料		200	200	
	・		200	200	
	・				
	⑥その他 (諸経費)	1,680	7,005	8,685	
	・修士DD生、博士非DD生受入用宿舍 (1500円×140泊×12人)	1,680	840	2,520	
	・博士DD生受入用宿舍 (1500円×330泊×1人)		495	495	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金 (SJTU、60千円×5か月×6人)		1,800	1,800	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金 (PNU&UTM、70千円×5か月×6人)		2,100	2,100	
	・博士DD生派遣奨学金 (70千円×11か月×1人)		770	770	
	・国際セミナー (CSS EEST) 開催費用		1,000	1,000	
	・				
2023年度	合計	12,798	10,187	22,985	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2024年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		1,000	1,000	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費		1,000	1,000	
	・PC関連消耗品、ソフトウェア、文具など		1,000	1,000	
	・				
	[人件費・謝金]	6,500		6,500	
	①人件費	6,000		6,000	
	・プロジェクト支援員 2名	6,000		6,000	
	・				
	②謝金	500		500	
	・実践英語教育非常勤講師	500		500	
	・				
	[旅費]	1,880	3,340	5,220	
	・国内旅費		300	300	
	・海外旅費		400	400	
	・国際セミナー（CSS EEST）教職員旅費 PNU	1,000		1,000	
	・派遣学生渡航費（SJTU&PNU、80千円×11名）	240	640	880	
	・派遣学生渡航費（UTM、120千円×2名）	240		240	
	・国際セミナー（CSS EEST）派遣費用 80千円×30名 to PNU	400	2,000	2,400	
	・				
	[その他]	3,138	10,047	13,185	
	①外注費		220	220	
	・複合機（プリンター）レンタル		220	220	
	・				
	②印刷製本費	600	400	1,000	
	・事業報告書、News Letter 等	600	400	1,000	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費	28	52	80	
	・郵便物運搬料	28	52	80	
	・				
	⑤光熱水料	200		200	
	・	200		200	
	・				
	⑥その他（諸経費）	2,310	9,375	11,685	
	・修士DD生、博士非DD生受入用宿舍（1500円×140泊×12人）	1,260	1,260	2,520	
	・博士DD生受入用宿舍（1500円×330泊×1人）		495	495	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金（SJTU、60千円×5か月×6人）		1,800	1,800	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金（PNU&UTM、70千円×5か月×6人）		2,100	2,100	
	・博士DD生派遣奨学金（70千円×11か月×1人）		770	770	
	・サマースクール開催費用	1,050	2,950	4,000	
	・				
2024年度	合計	11,518	14,387	25,905	

(大学名：九州大学①)

(タイプ A①:CAプラス)

(前ページの続き)		(単位：千円)			
<2025年度>	経費区分	補助金申請額 (①)	大学負担額 (②)	事業規模 (総事業費) (①+②)	備考
	[物品費]		1,000	1,000	
	①設備備品費				
	・				
	・				
	②消耗品費		1,000	1,000	
	・PC関連消耗品、ソフトウェア、文具など		1,000	1,000	
	・				
	[人件費・謝金]	6,500		6,500	
	①人件費	6,000		6,000	
	・プロジェクト支援員 2名	6,000		6,000	
	・				
	②謝金	500		500	
	・実践英語教育非常勤講師	500		500	
	・				
	[旅費]	2,120	7,880	10,000	
	・国内旅費		300	300	
	・海外旅費		400	400	
	・サマースクール教職員旅費	1,000		1,000	
	・国際セミナー (CSS EEST & IMAT) 教職員旅費		1,500		
	・派遣学生渡航費 (SJTU&PNU、80千円×11名)	160	720	880	
	・派遣学生渡航費 (UTM、120千円×3名)	240	120	360	
	・国際セミナー (CSS EEST & IMAT) 派遣費用 100千円×30名 to UTM	400	2,600	3,000	
	・サマースクール派遣費用 80千円×32名 to PNU	320	2,240	2,560	
	・				
	[その他]	1,746	7,439	9,185	
	①外注費		220	220	
	・複合機 (プリンター) レンタル		220	220	
	・				
	②印刷製本費	650	350	1,000	
	・事業報告書、News Letter 等	650	350	1,000	
	・				
	③会議費				
	・				
	・				
	④通信運搬費	46	34	80	
	・郵便物運搬料	46	34	80	
	・				
	⑤光熱水料		200	200	
	・		200	200	
	・				
	⑥その他 (諸経費)	1,050	6,635	7,685	
	・修士DD生、博士非DD生受入用宿舍 (1500円×140泊×12人)	1,050	1,470	2,520	
	・博士DD生受入用宿舍 (1500円×330泊×1人)		495	495	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金 (SJTU、60千円×5か月×6人)		1,800	1,800	
	・修士DD、博士非DD生派遣奨学金 (PNU&UTM、70千円×5か月×6人)		2,100	2,100	
	・博士DD生派遣奨学金 (70千円×11か月×1人)		770	770	
	・				
2025年度	合計	10,366	16,319	26,685	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) 上海交通大学		国 名	中国		
	(英) Shanghai Jiao Tong University					
設 置 形 態	国立大学	設 置 年	1896			
設 置 者 (学 長 等)	初代学長：盛宣懷。1982年に教育部直属となった。現任学長：林忠欽					
学 部 等 の 構 成	学部学科数:9(経済、法学、文学、理学、工学、農学、医学、管理、芸術) 大学院学府数:33(船舶海洋与建築工程、機械与動力工程、電子情報と電気工程、材料科学与工程、環境科学与工程、生物医学工程、航空航天、エネルギーイノベーション、数学、物理与天分、化学科学と化学工業、Zhiyuanカレッジ、海洋、生命科学技術、農業与生物、医学、薬学、経済与管理、法学、外国語、人文、マルクス主義、国際与公共事務、メディア与宣伝、設計、体育、金融、教育、UM-SJTU学院、SJTU-ParisTech卓越エンジニア学院、USC-SJTU文化創意産業学院、中国-ヨーロッパ国際経営学院、中英低炭素学院)					
学 生 数	総数	44,233人	学部生数	16,351人	大学院生数	27,882人
受け入れている留学生数	2,780	日本からの留学生数	183人			
海外への派遣学生数	4,505	日本への派遣学生数	319人			
Webサイト(URL)	http://www.sjtu.edu.cn/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

以下の写し添付のように、上海交通大学はIAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であることを確認した。

 		Shanghai Jiao Tong University Shanghai Jiaotong Daxue (SJTU)	
IAU-015256		China	
General Information			
General Information			
Address	Street: 800 Dongchuan Road, Minhang District City: Shanghai Post Code: 200240 WWW: http://www.sjtu.edu.cn		
Other Sites	Also campuses in Xuhui, Fuhua, Shangzhong, Qibao, Luwan campuses; 35 postdoctoral mobile stations		
Institution Funding	Public		
History	Founded 1896 as Nanyang Public School Acquired present title 1959 and status 2005. Part of "985 Project" universities. Main administrative body: Ministry of Education		
Academic Year	September to July (September-February; February-July)		
Tuition Fees	International: 24,800-45,800 per annum (CNY)		
Language(s)	Chinese;English		
Accrediting Agency	Ministry of Education		

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日)釜山大学校		国名	韓国		
	(英) Pusan National University					
設 置 形 態	国立大学	設 置 年	1946			
設 置 者 (学長等)	CHA Jeong-In					
学 部 等 の 構 成	学部数: 16 (人文、社会科学、自然科学、工科、教育学、経済通商、経営、薬学、人類生態、芸術、看護、ナノ科学技術、自然資源と生命科学、医科、情報生物医工学、スポーツ科学) 大学院 (一般): 16 (人文、社会科学、自然科学、工科、教育学、経済通商、経営、薬学、人類生態、芸術、看護、ナノ科学技術、自然資源と生命科学、医科、情報生物医工学、スポーツ科学) 大学院 (Professional): 4 (国際研究、歯科、韓医学、法学) 大学院 (Special): 8 (経営、経済通商、公共管理、教育学、産業、環境、技術起業、ファイナンス)					
学 生 数	総数	36,360人	学部生数	28,124人	大学院生数	8,236人
受け入れている留学生数	1,355	日本からの留学生数	43人			
海外への派遣学生数	1,362	日本への派遣学生数	18人			
Webサイト (URL)	https://www.pusan.ac.kr					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

以下の写し添付のように、釜山大学校はIAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であることを確認した。

 	
IAU-013791	Korea (Republic of)
General Information	
General Information	
Address	Street: 2, Busandaehak-ro 63beon-gil Geumjeong-gu City: Pusan Post Code: 46241 WWW: http://www.pusan.ac.kr
Other Sites	Also University Hospital
Institution Funding	Public
History	Founded 1946 as Pusan National College, acquired present status and title 1953.
Academic Year	March to December (March-June; August-December)
Admission Requirements	Secondary school certificate and entrance examination
Language(s)	Korean
Accrediting Agency	Korean Council for University Education (KCUE)

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)



海外相手大学の概要【相手大学ごとに①～③合わせて2ページ以内】

①交流プログラムを実施する相手大学の概要

大 学 名 称	(日) マレーシア工科大学		国 名	マレーシア		
	(英) Universiti Teknologi Malaysia					
設 置 形 態	国立大学	設 置 年	1904			
設 置 者 (学 長 等)	Ahmad Fauzi Ismail					
学 部 等 の 構 成	学部: 7 (工学、社会人文学、理学、建築環境と測量学、国際経営学、技術と情報学、マレーシア日本国際工科院) 学部教育プログラム: >50 大学院教育プログラム: 256					
学 生 数	総数	24,704人	学部生数	15,526人	大学院生数	9,178人
受け入れている留学生数	5,267	日本からの留学生数	66人			
海外への派遣学生数	128	日本への派遣学生数	59人			
Webサイト (URL)	https://www.utm.my/					

②記入した相手大学が認可等を受けていることについて記載してください。また、その根拠となるデータや資料等を貼付してください。

以下の写し添付のように、マレーシア工科大学はIAU(International Association of Universities)のWHED(World Higher Education Database)掲載大学であることを確認した。

				University of Technology Malaysia Universiti Teknologi Malaysia (UTM)	
IAU-019940		Malaysia			
General Information					
↑ General Information					
Address	Street: Office of Corporate Affairs Sultan Ibrahim Chancellery Building Universiti Teknologi Malaysia City: Johor Bahru Province: Johor Post Code: 81310 WWW: http://www.utm.my				
Other Sites	Also Campus in Kuala Lumpur				
Institution Funding	Public				
History	Founded 1925 as Technical School, became College 1946 and acquired present status and title 1972				
Academic Year	July to May				
Admission Requirements	Malaysian Certificate of Education (SPM) or equivalent.				
Language(s)	English				
Accrediting Agency	Ministry of Higher Education; Malaysian Qualifications Agency (MQA)				
Student Body	co-ed				

(大学名: 九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

③申請に当たって、相手大学の合意を得ている根拠となる資料の写しを貼付してください。

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

参考データ【国内の大学等1校につき、①～③は枠内に記入、④～⑥はそれぞれ指定ページ以内】
 ※人数等の算定に当たっては、原則として「学校基本調査」による定義に基づき記入。

大学等名	九州大学		
①大学等全体における出身国別の留学生の受入総数（2019年5月1日現在）及び各出身国（地域）別の2019年度の留学生受入人数			
※「留学生」とは、「出入国管理及び難民認定法」別表1に定める「留学」の在留資格を有する者に限る。 ※「2019年度受入人数」は、2019年4月1日～2020年3月31日の出身国（地域）別受入人数を記入。 ※「全学生数」には、日本人学生及び外国人留学生を含めた大学等全体の2019年5月1日現在の在籍者数を記入。			
順位	出身国（地域）	受入総数	2019年度 受入人数
1	中国	1,248	1,677
2	韓国	250	289
3	インドネシア	125	160
4	ベトナム	94	120
5	バングラデシュ	56	68
6	中国（台湾）	51	75
7	タイ	47	68
8	ミャンマー	43	54
9	エジプト	40	49
10	マレーシア	36	41
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) モンゴル	397	593
留学生の受入人数の合計		2,387	3,194
全学生数		19,144	
留学生比率		12.5%	
②2019年度中に留学した日本人学生数及び派遣先大学合計校数			
※教育又は研究等を目的として、2019年度中（2019年4月1日から2020年3月31日まで）に海外の大学等（海外に所在する日本の大学等の分校は除く。）に留学した日本人学生について記入。 なお、2019年3月31日以前から継続して留学している者は含まない。			
順位	派遣先大学の所在国 (地域)	派遣先大学名	2019年度 派遣人数
1	オーストラリア	クイーンズランド大学	43
2	韓国	釜山大学校	41
3	中国	上海交通大学	34
4	カナダ	ビクトリア大学	32
5	オーストラリア	モナッシュ大学	29
6	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学	28
7	アメリカ合衆国	サンノゼ州立大学	27
8	アメリカ合衆国	オレゴン州立大学	25
9	タイ	アジア工科大学院	24
10	フィンランド	アールト大学	23
その他 (上記10カ国以外)	(主な国名) マレーシア 計 49 カ国	(主な大学名) マラヤ大学 計 152 校	1,028
派遣先大学合計校数		162	
派遣人数の合計			

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学						
③大学等全体における外国人教員数（兼務者を含む）（2020年5月1日現在）							
<p>※「全教員数」には大学等に在籍する日本人教員も含めた全教員数を記入。</p> <p>※「うち専任教員（本務者）数」には教授、准教授、講師、助教、助手の専任の外国人教員の数をそれぞれ記入。 （いずれにも当てはまらない場合には、「助手」に含めること。）</p>							
全教員数	外国人教員数						外国人教員の比率
	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	
2,378	24	56	12	51	0	143	6%
うち専任教員 （本務者）数	24	56	12	51	0	143	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学								
④取組の実績	【4ページ以内】								
◆国際的な教育環境構築に向けた取組									
【英語による授業】									
英語の授業のみで学位が取得できる国際コースを、大学院レベルで72コース、学部レベルで5コース（農学部・工学部）設置している。英語で実施する科目数は、平成25年度の1,269科目から令和元年度には3,241科目に増加している。									
	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)		平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値
英語による授業科目数(D)	1,269 科目	1,354 科目	1,756 科目	1,505 科目	2,055 科目	2,509 科目	2,742 科目	2,186 科目	3,241 科目
うち学部	219 科目	250 科目	188 科目	346 科目	205 科目	211 科目	256 科目	837 科目	295 科目
うち大学院	1,050 科目	1,104 科目	1,568 科目	1,159 科目	1,850 科目	2,298 科目	2,486 科目	1,349 科目	2,946 科目
(令和2年度スーパーグローバル大学創成支援中間評価より抜粋)									
【留学生との交流促進】									
伊都キャンパスに日本人学生と留学生の混住型学生寮である伊都協奏館およびドミトリーⅢ（写真1）を設置。各宿舎には日本人学生と留学生から選出されたドミトリーリーダーを配置し、宿舎内の国際コミュニケーション活発化に取り組んでいる。平成30年に設置した共創学部では、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ授業スタイル（クラスシェア）を積極的に取り入れている。また、自主的な外国語学習をサポートする場所として、SALC(Self-Access Learning Center)を設置し、外国人留学生と日本人学生が、英語学習等を通して、日常的に交流できる環境を作っている。さらに、令和元年度に日本人学生・外国人留学生で構成される Q-Mate を国際部留学課に組織し、留学生からの日々の相談対応のほか、交流イベントの開催（写真2）や SNS を駆使した情報提供等の活動を行っている。									
									
写真1: ドミトリーⅢ					写真2: Q-Mateが企画した草刈りイベント（令和元年度）				
【海外大学との連携】									
国際的な大学院教育プログラムの充実を目的に、令和3年8月現在、16 のダブルディグリー・プログラムを実施している。									
▼ダブルディグリー・プログラムの例									
<ul style="list-style-type: none"> ・大学院総合理工学府と国立釜山大学工学府（博士） ・大学院経済学府と中国人民大学応用経済学院（修士） ・農学部と北アリゾナ大学環境森林自然科学部（学士） 									
また、ハワイ大学マノア校（米国）、高麗大学校（韓国）との国際体験型共同教育プログラム「アジア太平洋カレッジ」や、ASEAN地域の大学と共同で開催する「ASEAN in Today's World (AsTW)」を毎年実施している。さらに、APRU（環太平洋57大学）、MIRAI（日瑞15大学）、RENKEI（日英12大学）といった国際大学コンソーシアムに加盟し、海外大学との連携を強化している。									

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学									
④取組の実績	【4ページ以内】									
◆国際化に対応した教員の採用と資質向上										
【国際公募・年俸制・テニュアトラック】										
教員の新規採用は国際公募を原則とし、国籍問わず海外経験者の採用を促す体制をとっている。										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)		令和2年度 (R2.5.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値	実績値
外国人教員等(A)	573人	615人	618人	830人	832人	875人	979人	1,130人	1,061人	1,002人
うち外国籍教員	109人	121人	134人	220人	149人	149人	145人	180人	142人	143人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	89人	92人	96人	110人	105人	96人	117人	130人	117人	130人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	262人	278人	270人	360人	416人	469人	558人	580人	610人	515人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	113人	124人	118人	140人	162人	161人	159人	240人	192人	214人
全専任教員数(B)	2,311人	2,408人	2,421人	2,311人	2,420人	2,436人	2,409人	2,311人	2,385人	2,378人
割合(A/B)	24.8%	25.5%	25.5%	35.9%	34.4%	35.9%	40.6%	48.9%	44.5%	42.1%
(令和2年度スーパーグローバル大学創成支援中間評価より抜粋)										
平成26年度に、魅力ある年俸制給与体系とメリハリある業績評価体制の一体的構築により、2千万円級の給与が支給可能な年俸制を導入した。その後、明確な基準による業績評価制度と、その評価結果を処遇に反映させる新たな年俸制度を構築し、令和2年度から導入している。年俸制の適用教員数は、令和2年実績で341名。										
テニュアトラック制については、平成23年度から「九州大学テニュアトラック制」を開始し、優れた若手研究者の育成を推進し、本学の研究活動の活性化を図った。さらには、文部科学省卓越研究員事業により、これまで本学で培ってきたテニュアトラック制度を適用し、平成28年度：2人、平成30年度：2人、令和元年度：2人の合計6名の卓越研究員を採用。優秀な若手研究者が新たなキャリアパスを構築し、独立した自由な研究環境の下で活躍している。独自のテニュアトラック制度と卓越研究員事業によるテニュアトラックを合計した教員数は、令和元年度実績で14名。										
【FDの実施】										
各部局でFD研修を実施し、カリキュラム、シラバス、教育手法、成績評価等の改善を行っている。全学では新任教員研修を行っているほか、教育改善や学生支援をテーマとして複数回FDを開催している。令和2年度には全学部専任教員の3/4以上の教員が何らかのFDに参加した。										
英語による教授法の研修としては、平成29年に大学間協定校のリーズ大学（英国）、クイーンズランド大学（豪州）から講師を招き、英語による教授法の研修を実施した実績がある。										
◆事務体制の国際化に向けた取組										
【英語のできる職員の採用・配置】										
職員の採用においては、TOEIC600点以上のスコアを有する者や海外留学経験のある者を積極的に採用している。また、令和元年度からは、国立大学法人等事務職員採用試験に加え、大学独自の採用試験を開始し、年齢制限を緩和するとともに筆記試験をなくすことでより多様な人材を採用できる体制となっている。その他、令和2年4月に職域限定職員制度に、専門的な資格等を必要とする業務に従事する職種（職域限定専門職員）を新設し、高度な語学能力を有する者等を採用できる制度を導入している。										
【職員への研修の実施】										
文部科学省や日本学術振興会が実施している大学職員向け国際業務研修に職員を派遣しているほか、大学独自で海外派遣研修を行っている。過去に実施した研修は以下のとおり。										
<ul style="list-style-type: none"> ・職員海外研修（自主課題研究：職員自身で派遣先・研修内容を企画） ・職員海外研修（アテネオ・デ・マニラ大学（フィリピン）） ・職員高度化海外研修（国立台湾大学） 										
いずれの研修も単なる語学研修ではなく、海外大学の取組を学ぶことや職員との意見交換等を通じて、国際的業務における企画能力養成を目的としている。並行して国内で受講する語学研修も実施し、コロナ禍で海外派遣が難しい状況下においても国際業務に対応可能な職員の育成に努めている。										
<国内で受講する語学研修の例>										
<ul style="list-style-type: none"> ・英語ビジネスライティング研修 ・ブートキャンプ研修（英語による会議運営の実践集中訓練） ・アドバンスド・コミュニケーション研修（プレゼンテーションやディベートの能力を涵養） 										

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学
------	------

④取組の実績 【4ページ以内】

【事務局から発出する学内文書の二言語化】

従来、必要に応じて各部局で取り組んできた学内文書の二言語化であるが、事務局から発出する文書のうち、外国人教員や留学生にも関係のある文書については、事務局各課から日英表記された文書を発出することとしている。

その実施にあたっては、英語ができる職員及び機械翻訳を活用し、令和3年度内は試行、令和4年度から本格運用を行う。

【組織の再編】

さらなる国際化推進のためには、各部局の体制強化が最重要であるという認識の下、令和3年4月に、教職協働組織である「部局国際推進室」を各大学院・学部を担う部局（全19部局）に立ち上げ、活動を開始した。部局国際推進室は、部局における教育の国際化推進の旗振り役としての役割を担っている。また、大学全体の国際戦略を司る「国際戦略企画室」（令和3年4月設置）との連携により、大学全体の国際化への取組を一層強める。

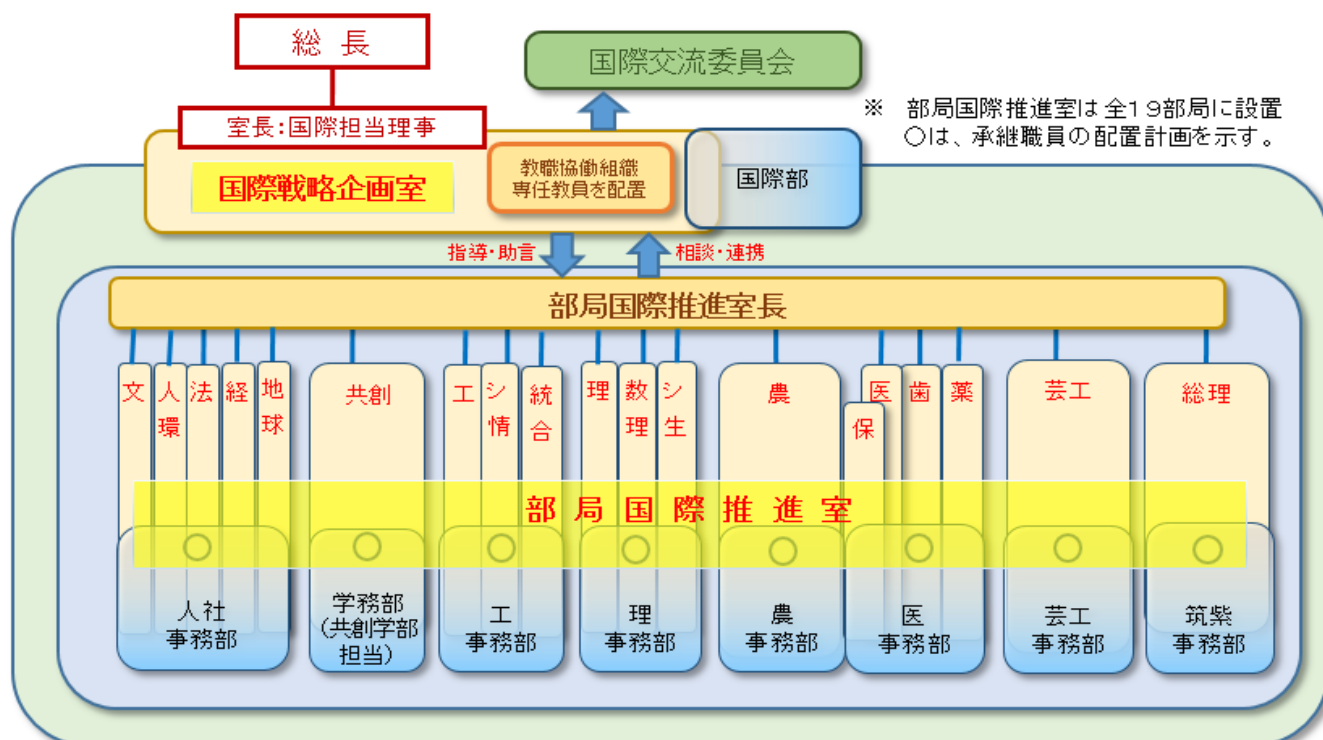
(部局国際推進室の主な業務)

- ・部局における国際戦略の策定・実施
- ・国際協働プロジェクトの推進
- ・学生交流（受入・派遣）プログラムの開発推進
- ・ジョイントディグリープログラム、COILなど国際連携教育の開発推進
- ・留学生のリクルーティング
- ・帰国留学生とのネットワーク構築 など

(国際戦略企画室の主な業務)

- ・戦略的国際交流（戦略的パートナーシップ校等）の企画・調整
- ・コンソーシアム型国際連携の企画・調整
- ・海外の高等教育、学生交流の動向などの情報収集
- ・部局国際推進室との連携・調整
- ・部局における学生派遣・受入れプログラムの開発支援
- ・本学のDX戦略と国際戦略の融合的展開に係る支援、立案、調査 など

国際化推進体制(令和3年度～)



(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学
④取組の実績 【4ページ以内】	
<p>◆厳格な成績管理、学生が履修可能な上限単位数の設定、明確なシラバスの活用等による学修課程と出口管理の厳格化等、単位の実質化</p> <p>【4学期制の導入】 平成29年度より4学期制を基礎とした学期区分を導入しており、4つの授業期間（春学期、夏学期、秋学期、冬学期）を設定。授業回数等は、本学では1時限を2時間とみなし、15時間の授業に対して1単位を与えることを基本としている。</p> <p>【CAP制】 平成26年度から開始した全学部共通の「基幹教育」において、1年次は年間で42単位を履修上限として設定している。</p> <p>【改定版GPA制度の全学実施・出口管理】 GPA制度を平成27年に改定し、学生の学習到達度をより適切に評価し、授業科目の到達目標から成績評価を可能にした。これにより評価基準がより明確になり、厳格な成績評価を可能にしている。 GPA制度の見直しと同時に、到達目標に達していない学生に対する再履修制度を導入したほか、平成28年度入学生からは、GPA2.0以上を卒業時の目安として設定した。成績不振に陥った学生に対し、各学部の状況に応じた体制やGPAを用いた成績不振の基準及び学生への対応に関する申し合わせを全学部で作成している。</p> <p>【シラバスの見直し】 平成26年度に、従来使用してきたシラバスの記載内容の見直しを行い、授業科目の観点別（知識・理解、技能、態度等）の到達目標に対する到達度を明示し、観点別の成績評価と関係付け、準備学習の具体的な指示や、授業時間外の学修時間の目安を記載するなど、成績評価基準の明確化を図ったシラバスに改定している。 平成27年度より、学生の到達レベルと評価基準をマトリクス形式で示すルーブリックを導入し、学士課程の全授業科目でシラバスに公開できるようシラバスシステムを改修した。また、全学的にシラバスの英語化に取り組んでおり、学部、大学院で開講する科目は、主要8項目（授業科目名、授業科目区分、必修選択の別、担当教員名、対象学部、対象学年、使用言語、授業概要）については必ず日英併記を行うこととし、英語のみで学位取得可能なコースでは公開すべき項目の全てを英語表記することとしている。</p> <p>【科目ナンバリング】 授業科目ごとにその水準、順次性、使用言語等を示す科目ナンバリングを平成27年度に学部レベルで完了、令和2年度に大学院レベルにおいても完了した。</p> <p>【3ポリシーの見直しとカリキュラム・マップの作成】 平成31年度から、学修者本位の教育を目指す高等教育政策（入試制度改革及び認証評価を含む）に対応するディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとカリキュラム・マップ、アドミッションポリシーの見直しを開始し、令和2年9月までに、学士課程（57プログラム）、修士・博士課程（74プログラム）の3ポリシーとカリキュラム・マップについて、その妥当性と論理的整合性を学問分野別参照基準に照らして確認し、見直しを完了した。完成した3ポリシーとカリキュラム・マップは、本学の教育改革推進本部HPにおいて公開している。また、シラバスとカリキュラムマップを連携させるシステムを開発しており、学生自身が身につけた知識や能力等を確認できるようにするなど学修者本位の環境を整備を進めている。</p>	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果	
大学名	九州大学
整理番号	A11
構想名	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成（SHARE-Q）
◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価	
(総括評価)	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
B	
(コメント)	<p>本構想は、九州大学が取り組んできた大学改革、教育・研究の国際化に係る取組実績と、「多面性（学術分野の多様性を活かした国際連携）」、「発展性（アジア戦略の成果に立脚した世界展開）」、「重層性（研究型総合大学としての層の厚い教育・研究）」という3つの強みと特色に基づいて、世界トップレベルの研究教育拠点を目指すものである。</p> <p>国際広報の強化などのレピュテーションマネジメントによる国際的評価の向上や、文理融合で海外留学を必須化する共創学部の立ち上げ、世界トップレベル大学等からの研究者招へいを行うProgress 100による研究交流推進など、国際化の観点で一定の成果を上げている。</p> <p>一方で、構想時に設定された指標の内、外国人留学生の割合や留学経験者の割合などの中核的な指標を含め、約4分の3の指標が未達成であるが、最終年度にむけての達成見通しが明らかではない。今後、目標達成にむけて取り組みを工夫する余地はまだ多く残されているように思われる。</p> <p>これらの点を改善するために、改めて従来の取り組みを分析し、全学と学部・研究科などの部局との意思疎通を改善するための組織改正などを行い、国際担当理事が19部局との直接面接を行ったことなどは、評価に値する。しかし、現在積極的に進められている大学のリーダーシップと部局との国際面での対話がまだ十分に成果に結びついていないため、令和3年4月の組織再編後には、全学的な取組に繋がるように連携していくことが必要である。</p> <p>コロナ禍の中、指標達成という手段を目的化することなく、九州大学の独自性を生かした国際化の展開を強く期待する。</p> <p>自走化については、総長裁量経費が拡充され、リーダーシップを発揮できる環境は整っている。今後、大学のビジョンや戦略的に重点配分を行う仕組みを有効活用し、費用対効果を見極めつつ更なる国際化を進めることを期待する。</p>

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
<p>超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業 中間評価結果</p>	
代表校名	九州大学
取組名称	九州コンソーシアムによる副専攻型高度データサイエンス教育プログラム
<p>超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト育成事業委員会による評価</p>	
<p>[総括評価]</p> <p>A：これまでの取組を継続することによって、計画どおり事業目的を達成することが可能と判断される。</p>	
<p>[コメント]</p> <p>データ解析よろず相談窓口の設置によって様々な分野のデータ解析ニーズを収集し合同プロジェクトを立ち上げる体制は、実践的な学びと成果波及のエコシステムを構築しており、評価できる。その仕組みを活かし、データサイエンス実習におけるPBLでは、地域企業・自治体のニーズを取り入れ、企業等から提供された課題をベースとした分析が実施され、学生が身に付けた知識を実践の場で活かす経験ができていることは、高く評価できる。</p> <p>また、九州ADS育成コンソーシアムは産官学がバランスよく構成されているほか、学生・企業の双方にメリットがある実施体制が構築されており、今後の取組が大いに期待できる。本事業はアドバンスなデータサイエンス人材育成教育を指向しているが、小学生を対象としたビジュアルプログラミング言語の学習ログ解析の場を設けるなど、将来の人材育成につながる取組も行っていることは評価できる。</p> <p>事業の成果を確かにするため、以下の点について検討し具体的な改善策に取り組まれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 連携大学間で、それぞれ独立した教育プログラムを展開していることから、今後は実質的な連携に取り組むこと。 － 企業や自治体との連携等において、情報セキュリティや研究倫理は非常に重要であるため、PBLの開始に当たっては、e-learning等によって習熟度の確認や復習を行うこと。 － 企業選定について、プロジェクトの選定（内容、データ）、秘密保持契約締結後の実質的な作業時間、企業側の理解（成熟度）等を吟味し、事前の調整コストを下げる工夫をすること。 	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学
⑤事業の評価【1事業ごとに1ページ以内】	
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(医療チームによる災害支援領域) の取組概要及び中間評価結果	
整理番号	3
申請担当大学名 (連携大学名)	熊本大学 (九州大学)
領域	医療チームによる災害支援領域
事業名	多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成
事業推進責任者	熊本大学病院長 谷原 秀信
取組概要	
<p>本プログラムでは熊本大学災害医療研究教育センターを設置し、九州大学歯学部と連携して、医師会、歯科医師会及び行政機関の協力を得て、超急性期～急性期の支援に加え亜急性期～慢性期で問題となる慢性疾患等を対象とした長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士等の医療職や行政担当者等)を育成する。</p> <p>プログラムは学校教育法第105条に基づく履修証明制度とし、熊本大学と九州大学が教育を分担し、チーム医療の講義、実習および訓練の一部は両大学が共同で実施する。</p> <p>災害時に実践的に対応する医療職とこれらを統率する行政職を育成し、チームとして派遣するシステムを構築するとともに、平時にも多職種による二次医療圏での連携の充実を図り近隣型防災拠点を整備し、さらに、九州内の広域相互支援に対応できる高度医療人を育成する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) S	
順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○大災害の経験をもとに、災害の現場で必要とされる多職種連携、行政との連携、また災害のステージごとの活動についても焦点を当てており、実践的な教育プログラムを構築、運営している。また、各方面からの多くの参加人数の実績がある。</p> <p>○立場の違う医療支援を俯瞰的に学び多職種連携を可能にしたこと、特に医科歯科連携体制整備は優れている。</p> <p>○履修修了者について災害医療教育研究センター派遣チームに登録し、災害発生時の多職種連携チームによる医療支援体制を整備することは実質的であり、その波及効果は大きいものと期待する。</p> <p>○外部評価委員会が大学や病院の医師のみではなく、多様なステークホルダーから成り立っていることは評価できる。</p> <p>●医師・歯科医師のコースと医療系専門職のコースに分けているが、他職種協働を謳っている点では今後は災害リハビリテーションや公衆衛生学的な見地でのコースも期待する。</p> <p>●受講生のキャリアパスに関して、スキルを用いた具体的な道筋を考えてほしい。</p> <p>●他職種協働や災害時の調整本部などの視点を入れているのであれば、慢性期対策としての介護分野や行政の関係者が事業担当者に入っていないのは不十分ではないか。</p>	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)

大学等名	九州大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>○文部科学省 大学教育再生戦略推進費</p> <p>◆スーパーグローバル大学創成支援事業 「戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成（SHARE-Q）」（平成26年度採択） 世界トップレベルの研究教育拠点を指すため共創学部を設置、国際化を支えるガバナンス制度改革及び戦略的レピュテーション・マネジメント等を行う全学的な取組であるが、本構想の申請内容や経費と重複はない。</p> <p>◆大学の世界展開力強化事業（アフリカ諸国との大学間交流形成支援） 「南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成」（令和2年度採択） トラディショナルな“これまで”の資源開発学及び日本が強みを持つ“現在”の資源開発学をベースとして、Industry4.0やSociety5.0のコア技術でもある情報工学（AI、IoT、ビッグデータ等）を積極的に取り入れた“これから”の資源情報学（スマートマイニングと名付けている）を実践できるグローバル人材を日本と南部アフリカ諸国を舞台に養成することを目的とする取組。本構想の申請内容や経費と重複はない。 ※秋田大学が代表、九州大学は連携大学として参加</p> <p>◆卓越大学院プログラム 「マス・フォア・イノベーション卓越大学院」（令和2年度採択） 卓越した数学博士人材を育成する、分野横断型の修士・博士後期課程5年一貫教育コースで、数理学府・システム情報科学府・経済学府が実施部局である。本構想の申請内容や経費と重複はない。</p> <p>◆成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（enPiT）enPit Pro 「スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベティブ人材育成」（平成29年度採択） IoT・クラウド、ビッグデータ、人工知能の各技術を活用しスマートシステム&サービスを開発運用し、領域を超えた価値創造をグローバルにリード可能な人材の育成を目的としており、本構想の申請内容や経費と重複はない。 ※早稲田大学が代表、九州大学は連携大学として参加</p> <p>「企業・官公庁等のIT実務、OT実務、設計・製造実務における情報セキュリティに関わるプロ人材育成コースの開発・実施」（平成29年度採択） 文部科学省「情報セキュリティ人材育成に関する調査研究」で提唱されたモデル・コア・カリキュラムに基づき、社会人の学び直しを支援する高等教育の体制を整え、全産業分野の実務現場でリーダーを担う情報セキュリティ人材を育成することを目的としており、本構想の申請内容や経費と重複はない。 ※情報セキュリティ大学院大学が代表、九州大学は連携大学として参加</p> <p>◆多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」（平成29年度採択） がんに係る多様な新ニーズに対応するため、ゲノム医療従事者、希少がん及び小児がんに対応できる医療人材、ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門医療人材を養成を目的としており、本構想の申請内容や経費と重複はない。</p> <p>◆課題解決型高度医療人材養成プログラム 「多職種連携の災害支援を担う高度医療人材養成」（平成30年度採択） 慢性疾患等を対象とした長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士等の医療職や行政担当者等）を育成することを目的としており、本構想の申請内容や経費と重複はない。 ※熊本大学が代表、九州大学は連携大学として参加</p>	

（大学名：九州大学①）（タイプ A①:CAプラス）

大学等名	九州大学
⑥他の公的資金との重複状況 【2ページ以内】	
<p>○日本学術振興会 国際交流事業</p> <p>◆研究拠点形成事業 (A. 先端拠点形成型)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高速イオン輸送のための固体界面科学に関する国際連携拠点形成」(平成29年度採択) ・「熱活性化遅延蛍光材料の発光機構解明と新規発光材料への挑戦」(平成30年度採択) <p>我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係の確立による先端研究分野での世界的水準の研究交流拠点の構築および次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的としており、本構想の申請内容や経費の重複はない。</p> <p>◆研究拠点形成事業 (B. アジア・アフリカ学術基盤形成型)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「超難処理金鉱石のバイオハイドロメタラジー研究拠点の形成」(令和2年度採択) ・「国際メンターによる鉱物・地熱資源若手研究者の協働育成と新世代ネットワークへの移行」(令和2年度採択) <p>アジア・アフリカ地域における諸問題解決に資する研究課題について、我が国の大学等研究教育機関が主導的役割を果たし、相手国機関との持続的な協力関係を確立することにより当該分野におけるアジア・アフリカ地域の中核的研究交流拠点を構築および次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的としており、本構想の申請内容や経費の重複はない。</p> <p>○日本学生支援機構令和3年度海外留学支援制度</p> <p>【協定派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題に向き合うグローバル共創イノベーションPBL-COIL派遣プログラム ・アジア型グローバルローヤー養成プログラム ・アジア地区の医歯薬学交流を通じた次世代の医療グローバルリーダー養成プログラム ・アジアのビジネス・リーダーを養成するQBSのアジア提携ビジネススクールへの派遣プログラム ・持続的資源系人材育成のための国際協働教育プログラム ・ASEAN・資源国グローバル人材養成一学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム ・Exploring ASEAN and East Asian Interdisciplinary-Collaborative Study Abroad Program ・アジアの研究・教育を先導する分野横断型グローバルリーダー養成プログラム ・グローバル人材育成のための異分野融合国際教育プログラム ・グローバル創業人の育成を目指したアジア地区への派遣プログラム ・国際交流型デザイン教育プログラム ・組織的国際連携による工学系グローバルリーダー養成プログラム ・QRECアドバンスドアントレプレナーシップエクステンジブプログラム/QREC Advanced Entrepreneurship Exchange Program (QAEEP) ・スーパーグローバル大学創成支援事業タイプA <p>上記14プログラムは本構想とは実施部局が異なり、関連性はない。</p> <p>【協定受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアのビジネス・リーダーを養成するQBSへのアジア提携ビジネススクールからの受入プログラム ・九州大学外国人留学生日本研究プログラム Kyushu University Japanese Studies Program for International Students ・Summer in Japan (SIJ) : Kyushu University Intensive Cultural Program ・スーパーグローバル大学創成支援事業タイプA <p>上記4プログラムと本構想は実施部局が異なり、関連性はない。</p> <p>【双方向協定型】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学際協働イノベーションに向けた九州大学グローバル交換留学プログラム; COOL-Q (Collaborative Overseas Open Laboratory, Kyushu Univ.) <p>上記プログラムは本構想とは実施部局が異なり、関連性はない。</p>	

(大学名：九州大学①) (タイプ A①:CAプラス)